

---

**埼玉医科大学総合医療センター**  
**消化管・一般外科**  
**2017年度年報**

---





## 巻頭言

消化管・一般外科  
運営責任者・教授・診療部長  
石田秀行

2018年は4月9日の鳥根県西部地震、6月18日の大阪府北部地震、6月28日から7月8日にかけての西日本豪雨、9月6日の北海道胆振東部地震、8月末から9月に立て続けて発生した台風21～25号等、甚大な災害・天災が発生しました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族に深く哀悼の意を表します。また、被災された方々にお見舞い申し上げ、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。



近年の大災害の多くは、地球温暖化と密接に関連している訳ですが、大国の覇権争いの中、地球全体の行く末を真剣に考えているのか、疑問に思っているのは多くの人々の共通した認識です。「かつて経験のしたことがない」が日常茶飯事になりつつあり、人類全体がこの重大な問題に「鈍感」になっていくことが心配です。

私が昆虫少年であった頃、広島県までしか分布していなかったナガサキアゲハ（命名したのは彼のシーボルト）が自宅のミカンの葉に産卵し、あるいは虎ノ門ヒルズの前を悠々と飛翔している姿に遭遇しますと、微笑ましく思う一方、温暖化に対する危惧が脳裏をかすめ、複雑な気持ちになります。

総合医療センターでは病床の改築が進み、センター化構想とともに患者さん目線に立脚した診療面の強化を進めています。20年、30年先の当院における患者さんの満足度や医療スタッフの充実度について、とても想像出来ませんが、現在の病院スタッフが英知を結集して次世代の医療環境への対応を真剣に考えています。

私が他大学の外科学教室に入局した頃は、「何でもできるのが外科医」という誇りがありました。その後全国で臓器別診療科編成が進む中、診療科（講座）のなかでも臓器別診療・研究グループによる体制整備が進み、現在でも多くの大学病院ではその体制が堅持されていると思います。ところが画期的な治療や予防法の急速な進歩により、疾患頻度の変化が予想外に進み、臓器別診療にひずみが生じていることは偽りのない事実と思います。このような状況下、来年はゲノム医療元年とも言われています。当院はがんゲノム医療連携病院に指定されており、通常の外科診療業務のなかで、ロボット支援手術等の外科手術を極めつつ、がんゲノム医療（プレジジョンメディスン）の実装といった、二刀流、三等流がこなせるプレイヤーを育成する責務があると考えています。国策と現実の狭間で自らのリーダーシップが問われることになりそうです。

引き続きご指導・ご鞭撻のほど、お願い申し上げます。

## 2017年を振り返って

消化管・一般外科  
教授・副診療部長  
持木彫人

埼玉医大総合医療センターはここ数年で大きく変わり、高度救命救急センター、管理棟の新設、そして本館の改修工事が進んでいます。本館の改修工事では入院病棟の改装、透析室、内視鏡室、化学療法室の改装移転が行われました。患者さんのアメニティーの改善はもちろん職員の働きやすさも改善しています。最近、母校の国立大学病院に行きましたが、古さが目立ち、国立ゆえにタイムリーに改装、新設ができない現状を認識し、私学のフットワークの軽さを実感しています。



消化管・一般外科では食道、胃、大腸の専門グループに分かれて診療、研究を行なっています。食道は熊谷准教授を中心に拡大内視鏡による精密診断、術中のICGを利用した血流測定は、日本で指導的立場にあります。大腸は石田教授の指導のもと天野君と幡野君が腹腔鏡手術を積極的に取り入れており、手術症例数も安定しています。遺伝性大腸癌では日本を代表する施設となっており、ガイドライン作成の中心になっています。胃は私と石畝講師を中心に診療、研究を行っており、腹腔鏡手術の適応拡大、術式の開発、化学療法後のconversion surgeryに力を入れています。Conversion surgeryの症例数は本邦でも極めて多く、発表した論文はその後の論文でも数多く引用されました。日本の胃癌の罹患率は横ばいから低下になっていますが、近年の内視鏡治療の進歩によって、症例の半数は内視鏡治療が行われており、どこの施設でも外科手術症例数が減少しています。当科での手術症例数を増やすために周囲へのアピール、詳細な手術報告書、市民公開講座などを行ってきましたが、今ひとつ成果が出ていないと思っています。今後はロボット支援手術等の先進的な治療法を取り入れていく必要性を感じています。

この1年を振り返ってみると、特に研究が停滞していることを痛感しています。マンパワーの問題、研究費の問題等様々ですが、一番は会議、雑用が多くなり自分自身の熱意、気力が低下しているのではと反省しています。そういった状況下でも学会から講演や教科書執筆の依頼を受け、古いデータの使い回しではいけないと自分に発破をかける今日この頃です。来年には現在行っている胃切除後の食道運動で結果を出したと思います。

# 2017年度 フォトアルバム

新人歓迎会（2017年4月12日 川越プリンスホテル）



鴨田会（2017年8月5日 東武ホテル）





忘年会（東武ホテル）



## 送別会



## カンファレンス風景



## 集合写真（現在のスタッフ）



# 目次

## 巻頭言

消化管・一般外科 運営責任者・教授・診療部長 石田秀行

## 2017年を振り返って

消化管・一般外科 教授・副診療部長 持木彫人

## 2017年度 フォトアルバム

## 寄稿

### 近況報告

前橋赤十字病院 外科部長 宮崎達也 ..... 1

### 近況報告

洪川中央病院 菊地政貴 ..... 2

### 開院にあたり

傍島外科 院長・非常勤講師 傍島 潤 ..... 3

### 総務ごあいさつ

消化管・一般外科 講師 石畝 亨 ..... 4

### 東京都立大塚病院への出向を終えて

消化管・一般外科 助教 山本瑛介 ..... 5

### 消化管・一般外科の教室員となって

消化管・一般外科 助教 石川博康 ..... 6

### 武蔵野赤十字病院へ出向して

武蔵野赤十字病院 外科 石川 葵 ..... 7

診療実績 ..... 8

当科における診療・研究・教育 ..... 17

代表的疾患に対する治療方針 ..... 19

抄読会 ..... 23

## 業績

和文 著書・分担執筆 ..... 27

総説・解説 ..... 27

原著 ..... 28

症例報告・その他 ..... 29

英文 原著・ガイドライン ..... 31



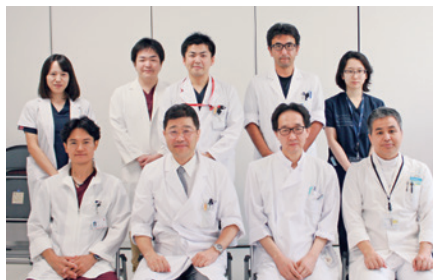
2018. 4～2018. 9掲載.....	35
学会・研究会 発表.....	38
座長・司会・コメンテーター .....	52
講演会・談話会 .....	56
研究費獲得.....	60
主な学会・研究会発表の年次推移.....	61
教室員.....	64
編集後記.....	65



## 近況報告

前橋赤十字病院外科 外科部長 宮崎達也

近況報告の原稿依頼のご連絡を石畝 亨先生より頂き、大変嬉しく存じます。私は2006年から2009年まで総合医療センターで共にお仕事をさせていただきました。その後、群馬大学総合外科へ移動し、本年4月1日付で、群馬県前橋市にある前橋赤十字病院に外科部長として移動となりました。



前橋赤十字病院は、群馬県の総合病院の一つとして機能しています。旧病院は1971年建築の本館などが老朽化しており、増築により導線が複雑化しているほか、駐車場が不足するなど狭隘化の問題もあることから、本年の6月に朝倉町の新病院に新築移転しました。新病院は病床数555床、免震構造の7階建てで全体の敷地面積は前病院の4倍（約128,000平方メートル）となり、災害対応エリアとして自衛隊の大型ヘリコプターが離着陸可能なヘリポートを含む防災緑地も整備され、災害拠点病院としての能力が強化されています。

私が所属する外科（消化器外科）のメンバーは9名（写真）でその内、専攻医（後期研修医）が2名含まれます。個性的な一騎当千のスタッフに囲まれて刺激を受けています。外科の年間手術は約1000件であり、総合医療センターと同様に救急症例が多い病院です。日々急患の手術に追われる毎日ですが、充実した時間を送っています。いまだ未熟であり組織のマネジメントに四苦八苦しておりますが、このようなときにいつも思い出すのは川越に在籍していた際の額に汗して診療をしていた日々です。こんな時に石田教授はどのように対処されていたでしょうか？メンバーの能力を最大限に引き出すにはどうしたらよいか？ 悩みは尽きません。焦ることなく、個人そして組織の成長が望めるような環境を作りたいと考えております。

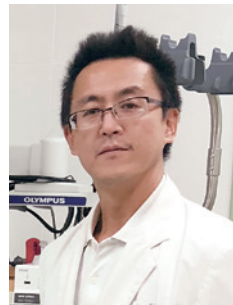
年報でいつも拝見しておりますが、石田秀行教授のリーダーシップのもと、毎年素晴らしい業績を発信されており、若い世代へのご指導が行き届いていて、私が在職中に新人であった先生が中堅として活躍されているお姿を拝見して大変嬉しく誇らしく感じております。

今後も埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科の更なるご発展を祈念しております。

## 近況報告

渋川中央病院 菊地政貴

この度年報の寄稿の依頼を賜りましたため、はなはなだ恐縮でございますが、最近の近況等につきましてご報告させていただきます。私は平成10年度埼玉医科大学卒業後、しばらく埼玉医科大学病院第2外科にて研修させていただき、その後平成17年春に埼玉医科大学病院総合医療センター消化管・一般外科、石田秀行先生の下で研鑽させていただきました。在籍期間は開業していた実家の都合もあり、一年間と短い期間でありましたがその間様々な手術症例、学会発表等を石田先生はじめ当時の消化管外科の先生方にご指導いただき、大変ありがたく思い、今でもその当時のことが、最近のように感じる次第であります。



平成18年春からは群馬県渋川市にある渋川中央病院にて勤務いたしております。当院はもともと父である理事長が開院し、現在36年が経過しております。特に内科、透析医療、リハビリテーション医療を中心に、地域医療に少しでもお役に立てるように日々職員一丸となり、努力している次第であります。私はそのなかで、消化器診療、回復期リハビリ中心に日々の診療をしております。当院も大変さまざまな部署で手狭となっており、特に内視鏡室の整備、拡張は緊急の課題でありました。そのため、ようやく本年造設計画に着手し、この度9月に新しい内視鏡室が完成いたしました。新しい内視鏡室はモニターも2台設置し、PACSに画像取り込みも行えるようになり、日々の業務の負担軽減が図れるようになりました。また大腸内視鏡においても、今までは透視室にて検査施行していましたが、オリンパス社製内視鏡挿入形状観測装置「UPD」を導入し、より患者さまへの侵襲が少なく、安全な検査が行えるような体制が整いました。ぜひ若い教室員の方で内視鏡検査ご希望の方がいらっしゃいましたら、お声掛けいただければ幸いです。

最近も多方面から埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科のご活躍をお聞きし、大変頼もしく、若干遠方の群馬の地からもうれしく感じております。最後に石田先生をはじめスタッフ先生方の御健勝、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科のますますのご発展をお祈りし結びの言葉とさせていただきます。

## 開院にあたり

傍島外科 院長 非常勤講師 傍島 潤

このたびは、埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科学教室開設15周年、誠におめでとうございます。

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

石田秀行教授以下皆様には、いつも大変お世話になっております。

平成29年3月退職以来、中村欣正先生の元で研鑽を積み、平成30年1月より中村先生が長年に渡り築かれた「中村外科」を継承する形で、有床診療所、在宅療養支援診療所、傍島外科を開院いたしました。これも、ひとえに埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の皆様のおかげであります。開院に際し石田秀行教授をはじめ、消化管・一般外科教室の皆様、OBの先生方よりお祝いの品やお言葉、お花を頂きまして誠に有り難うございました。この場を借りて御礼申し上げます。

今後は、自分のできる範囲で徐々に改装をしていく予定であります。これからは患者さんを紹介させていただく立場になりますが、是非よろしくごお願い申し上げます。

埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科教授石田秀行先生からいただいた言葉「実るほど頭を垂れる稲穂かな」、2年前に山田先生からいただいた言葉「詫び数寄常住、茶の湯肝要」を心に刻み、医道に勇往邁進する所存であります。川越の片隅から皆様のますますのご活躍を祈念しております。消化管・一般外科の皆様方、OBの先生方には、これまで同様、御指導御鞭撻の程よろしくごお願い申し上げます。





## 総務ごあいさつ

消化管・一般外科 講師 石畝 亨

消化管・一般外科 総務を拝命し3年がたちました。この3年の間、1年1年目標を持って総務の仕事に当たりました。1年目は、消化管・一般外科教室内を安定させること。これは、これまでまとまっていなかったわけではありませんが、ある一定の決まり事を作り、誰がかけても問題ない教室運営ができる体制作りを、また、院内各科、事務方との連携をやりやすくするのを行ってきました。2年目は、周辺の連携施設との関係をより一層密にすること、3年目は、その連携施設とのスムーズな患者様の受け渡しの強化を行ってきました。まだ、不十分なところはありますが、ある一定の成果はあったと考えております。



また、臨床面に置いては、患者の高齢化や、併存疾患が非常に多いという状況のなか、教室員一丸となって、緊急も含め昼夜問わず診療に行ってきました。今では、中堅、若手の先生の手術の技術、術後の管理などかなり上がった気がします。

また、今年度より当院の外科専門研修プログラムにも2人の医師が参加され新専門医制度がスタートいたしました。当外科専門研修プログラムも3年で30人ほどの後期研修医が獲得できる状況でありながら、2人というのは寂しいことではありますが、今年度はさらに外科専門研修プログラムのよさをアピールしていきたいと思っております。

まだまだ、新専門医制度をは始まったばかりであり、不安な事ばかりですが、これからも円滑に運営できるように連携施設の先生方にもご協力をお願いすることとなると思っておりますがよろしくお願い申し上げます。

常日頃ご指導・ご協力いただいている先生方には感謝の言葉しかありませんが、今後とも消化管・一般外科の発展、新専門医制度の成功に向けて精進して参りたいと思っておりますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます、総務のご挨拶にかえさせていただきます。

## 東京都立大塚病院への出向を終えて

消化管・一般外科 助教 山本瑛介

東京都立大塚病院での1年9か月の出向を終え、2018年度より総合医療センターへ復帰致しました。

私は2016年7月より東京都立大塚病院に出向し、日々診療に励むとともに、月に1回、JCHO東京山手メディカルセンター大腸・肛門科（大腸肛門病センター）へ手術見学をさせて頂き、これまでほとんど経験のなかった肛門疾患の勉強も同時にさせて頂きました。



東京都立大塚病院の外科は消化器外科、呼吸器・内分泌外科、乳腺外科、小児外科から成り、分野ごとにチーム性となっていました。しかしチーム性といっても同じ診療科であるため横のつながりが強く、私は消化器手術の研鑽を積みながらも、同時に呼吸器、乳腺、甲状腺といった手術も多く経験できました。消化器手術は、胃癌や大腸癌などの悪性疾患だけでなく、胆嚢炎や鼠径ヘルニア、腹壁癒痕ヘルニアといった良性疾患も多く、そのほとんどが鏡視下手術で行われておりました。また業務が終了したら、同世代のスタッフが自主的に集まり鏡視下手術のビデオで反省会をしたり、研究会に積極的に参加したりと、とてもよい雰囲気です。充実した日々をおくらせて頂きました。

総合医療センターに復帰後は、食道癌や潰瘍性大腸炎、FAPなど一般病院では経験できない疾患に携わり戸惑いも多くありますが、都立大塚病院での経験を総合医療センターでも生かすことが出来たらと思っています。

今後も精進して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

## 消化管・一般外科の教室員となって

消化管・一般外科 助教 石川博康

平成30年3月より埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科学教室で勤務させていただいております石川博康と申します。

出身は埼玉県深谷市で、出身大学は栃木県にある獨協医科大学です。5年次のBSLで外科を実習した際に、外科医の姿に憧れを抱き、自分もそのようなカッコいい外科医の1人になりたいと考えるようになりました。

大学卒業後は埼玉医科大学病院で初期研修を行い、その後、後期研修として東京都小平市にある公立昭和病院に2年間勤務させていただきました。同病院では、多くの手術を経験させてもらい、また執刀も数多くさせていただきました。忙しいながらも充実した毎日を過ごすことができました。

その後は、後期研修先に推薦していただいたこともあり、埼玉医科大学病院小児外科学教室にて勤務させていただきました。同教室では同期にも恵まれ、非常に楽しい日々を過ごしておりましたが、消化器外科医としての2年間で忘れられず、後悔しないためにも消化器外科医として生きて行く決心をしました。

そこで石田教授に無理を言って、当教室への配属をお願いさせていただきました。多くの方々に非常にご迷惑をおかけしたとは思いますが、受け入れていただきとても感謝しております。

勤務後にまず感じたことは、非常にリスクの高い患者さんが多いということです。そういった方の手術に関しては、より安全な手技を心がけ、周術期管理においても、ちょっとした変化も見逃さないことの大切さを日々実感しております。

また、遺伝性疾患など今まで経験したことのない症例に関して学ぶことができるため、この機会を生かし自分の得意分野にできたらと考えております。

まだまだ経験も浅く、未熟者で皆様にご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、日々努力いたしますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。



## 武蔵野赤十字病院へ出向して

武蔵野赤十字病院 外科 石川 葵

私は2016年4月に埼玉医科大学総合医療センター消化管・一般外科の一員となり、2017年10月より東京都武蔵野市にある武蔵野赤十字病院に出向させていただきました。

武蔵野赤十字病院に出向させていただいてからもうすぐ1年になりますが、毎日目まぐるしくも充実した日々を過ごさせていただいております。

大学、研修ともに埼玉医科大学であった私にとって、大きな環境の変化は初めてのことであり、最初はルールや方針の違いに戸惑うことも多くありましたが、先生方やメデイカルスタッフの皆様に優しく接していただき少しずつ慣れてきたように感じます。

こちらの外科は食道・胃チーム、2つの大腸チーム、肝胆膵チームの4チームがあり、私たち後期レジデントはこの4チームを回って勉強させていただきます。

手術日は週3日で、どのチームでも開腹・腹腔鏡ともに多くの症例があり、加えて急患症例も多いためチームの先生方から日々御指導いただくことができます。

執刀の機会も多く与えていただき、緊張感を持ちながら勉強させていただいております。

手術のない日は検査日となっており、技師さんに教えて頂きながら術前の透視検査をしたり、内視鏡検査をしたりして過ごしています。

このように勤務時間内は忙しく過ごすことが多いですが、その分オン・オフがはっきりと分かれているため、退勤後はきちんと休息を取り、その日のうちに学んだことの復習をする時間も取ることができます。早く仕事が終わった日には先輩方や後輩たちと武蔵野近辺で食事を楽しむこともあります。

また、他科との距離が近く、気軽に他科の意見を聞かせる環境にあるため、様々な角度から患者さんを診ることができるように他科の先生方からも勉強させていただいております。

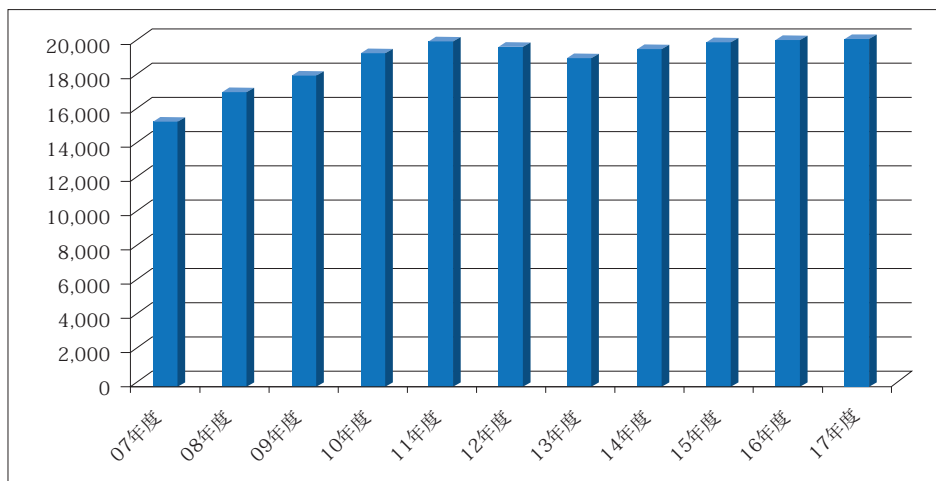
与えていただいたこの出向の機会を活かして少しでも多くのことを習得し成長できるよう、残りの期間も精一杯頑張りたいと思います。



## 診療実績

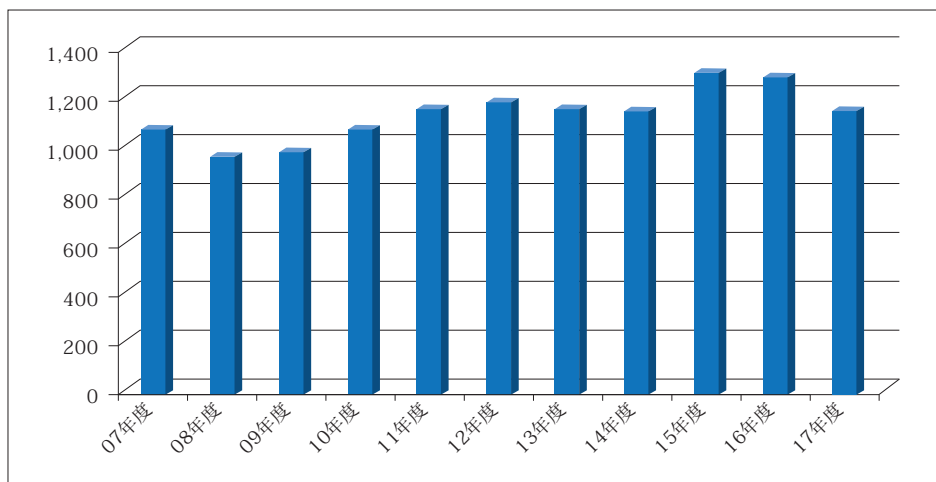
### 1) 外来

#### ①外来患者総数（のべ人数）



07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
14,444	16,413	17,442	18,718	19,229	18,499	18,082	18,856	18,917	19,017	19,109

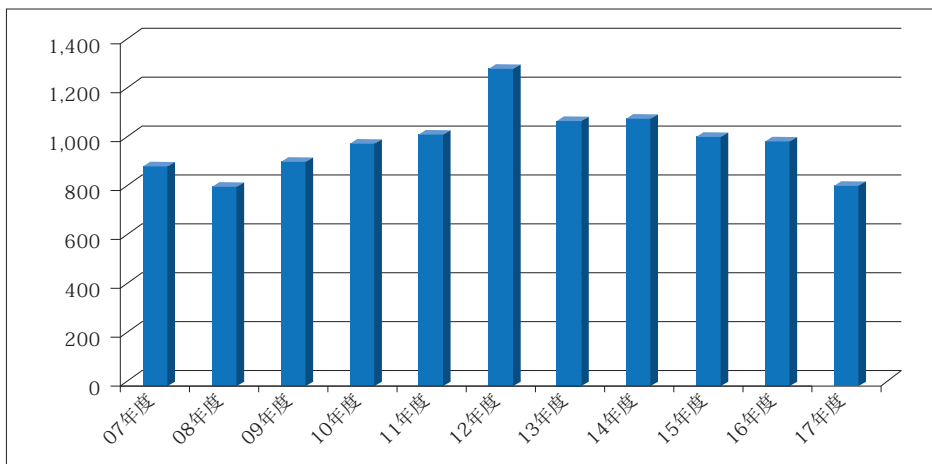
#### ②上部消化管内視鏡検査件数



	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
件数	1,063	926	963	1,039	1,110	1,188	1,165	1,126	1,222	1,204	1,132
EMR・ESD	6	10	5	0	7	10	13	9	14	8	6
PEG	25	34	39	32	36	29	23	23	18	35	8
ブジー	2	3	5	6	25	63	51	48	28	37	19

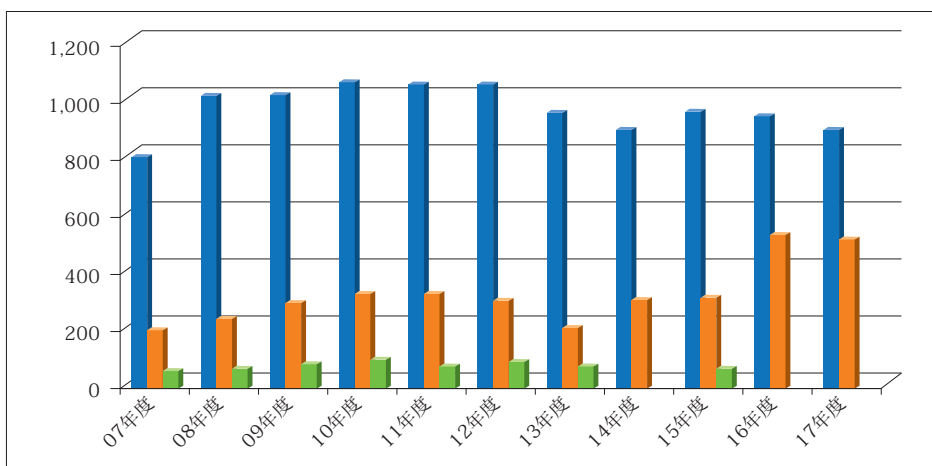


### ③下部消化管内視鏡検査件数



	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
件数	814	776	857	929	975	1,215	1,082	1,089	978	957	780
ポリバク	36	46	41	36	42	21	23	25	18	18	5
EMR	80	72	87	98	103	93	83	96	73	85	131
ステント						24	23	18	9	22	11

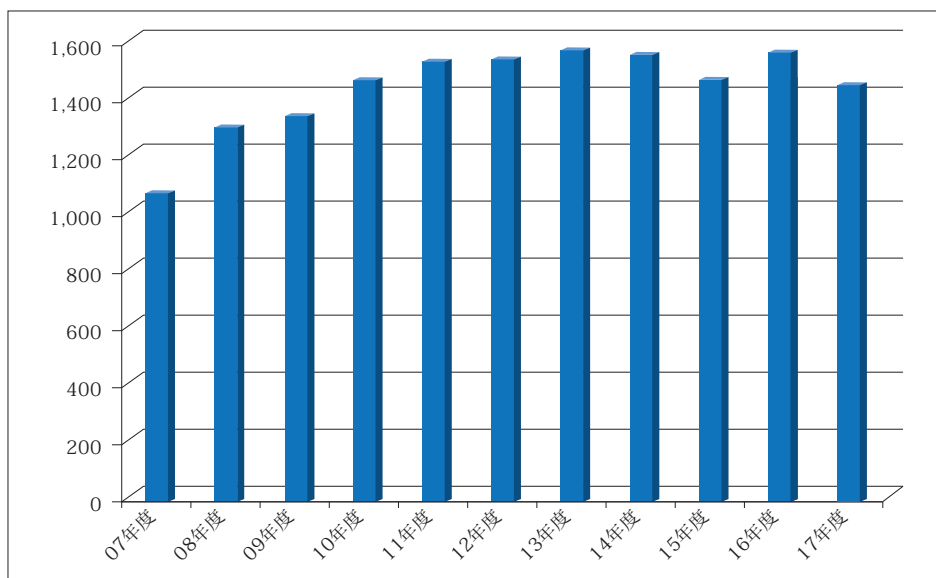
### ④外来化学療法件数



	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
大腸	769	967	978	1,087	1,059	1,002	912	815	951	900	863
胃	165	194	247	272	279	254	173	253	265	463	434
食道	4	5	14	31	14	20	10	0	6	0	0

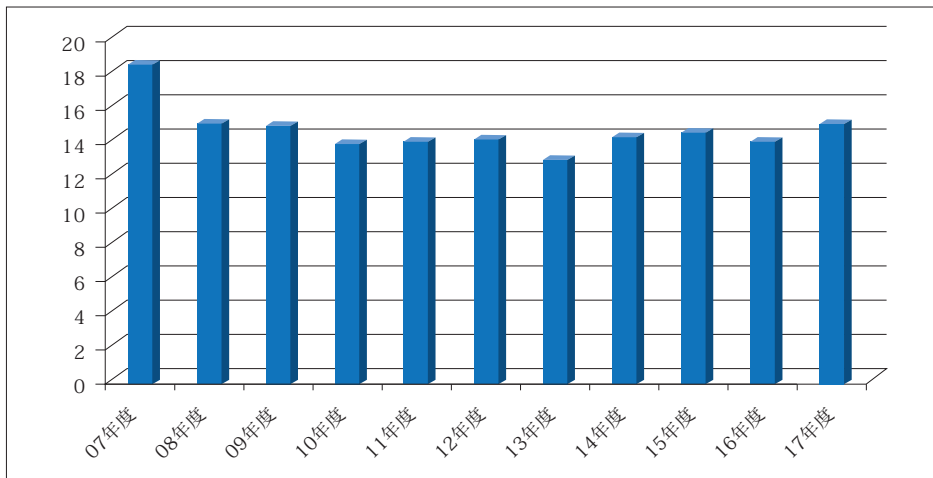
## 2) 入院

### ①入院患者総数と主な疾患



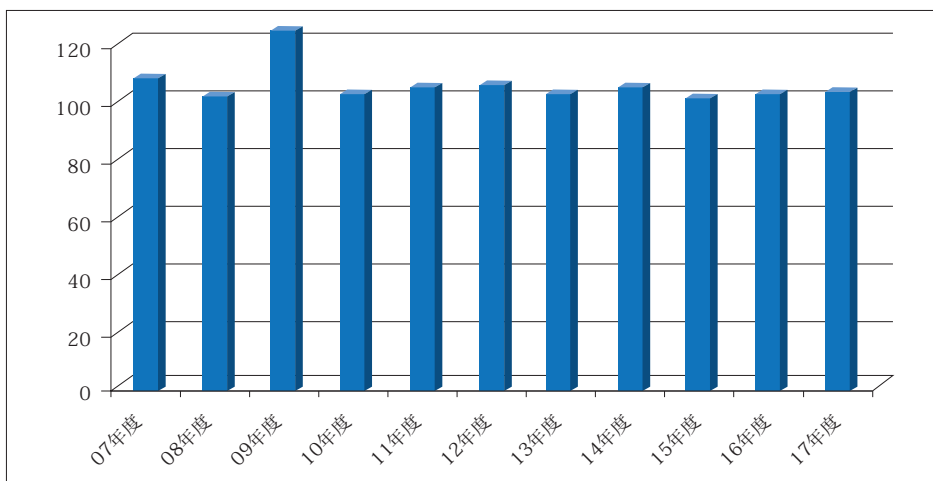
	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
入院患者総数	1,107	1,252	1,289	1,421	1,482	1,491	1,532	1,498	1,420	1,516	1,402
(1) 食道癌	98	116	127	123	150	157	108	143	148	149	161
(2) 胃癌	169	280	282	272	277	295	259	273	255	285	222
(3) 大腸癌	265	335	362	390	383	428	458	405	451	493	442
(4) 潰瘍性大腸炎	7	8	9	12	8	9	8	17	10	17	17
(5) クローン病	0	6	3	13	18	12	14	20	5	6	11
(6) 急性虫垂炎	73	71	90	87	97	95	98	74	64	78	77
(7) 鼠径ヘルニア	110	112	115	102	153	135	123	109	105	147	138
(8) 内痔核	10	4	45	58	69	40	47	29	23	20	8

②平均在院日数



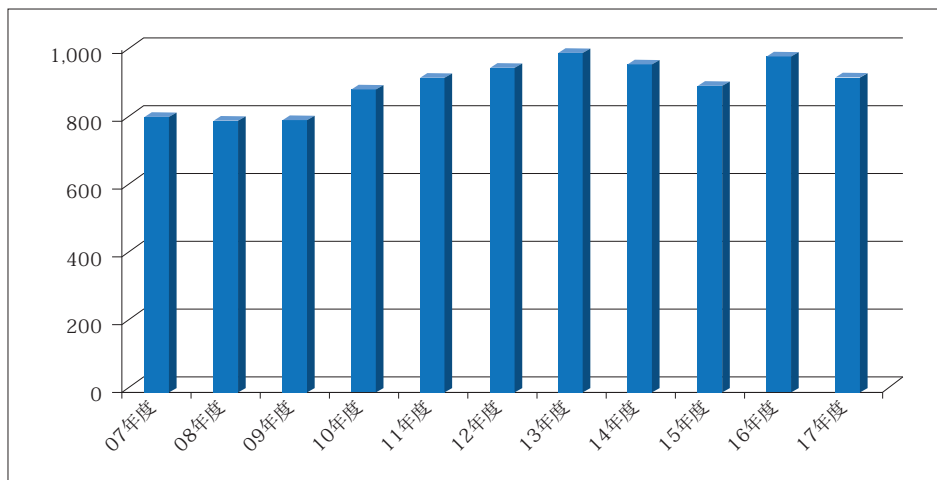
07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
17.8	14.3	14.1	13.1	13.2	13.4	12.2	13.6	13.9	13.6	14.2

③病床稼働率 (%)



07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
105.5	97.6	120.7	98.9	102.3	105.6	99.1	101.2	94.3	97.1	100.1

④手術件数



	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
(1) 食道悪性腫瘍	28	19	16	13	23	26	27	30	33	27	30
(2) 胃悪性腫瘍 (接合部癌含む)	103	127	101	96	104	112	106	104	117	120	110
(3) 結腸悪性腫瘍	90	104	86	96	115	144	124	104	128	123	144
(4) 直腸・肛門(管) 悪性腫瘍	62	44	43	58	46	48	84	75	50	67	67
(5) 潰瘍性大腸炎	2	4	4	1	4	4	3	2	3	3	7
(6) クローン病	7	4	5	11	5	7	5	6	3	3	4
(7) 急性虫垂炎	71	81	74	81	84	81	77	66	56	60	70
(8) 鼠径ヘルニア	109	146	119	104	152	143	124	114	107	107	125
(9) 内痔核	10	1	46	75	65	31	45	26	21	13	23
緊急	260	270	186	246	247	243	269	246	199	234	210
定時	514	494	582	590	651	663	681	678	652	713	690
全手術数	774	764	768	836	898	906	950	924	851	947	900

## 2017年度 手術詳細（術式または疾患）

食道	(良性) 食道裂孔ヘルニア	2	腹腔鏡下ヘルニア修復術	2
	(悪性) 食道癌	30	右開胸開腹胸部食道亜全摘術	15
			胸腔鏡下胸部食道亜全摘術	4
			右開胸咽頭喉頭食道全摘術	1
			内視鏡的粘膜下層剝離術	5
			左開胸開腹下部食道胃全摘術	1
			経裂孔的下部食道胃全摘術	1
その他	3			
胃	(良性) 胃潰瘍穿孔	7	単純閉鎖・大網被覆術	4
			胃全摘術	2
			部分切除術	1
	(悪性) 接合部癌	2	左開胸開腹下部食道切除+噴門側胃切除術	1
			下部食道切除+噴門側胃切除術	1
	胃癌	97	胃全摘術	14
			胃全摘術、脾合併切除術	1
			腹腔鏡下胃全摘術	3
			幽門側胃切除術	28
			腹腔鏡下幽門側胃切除術	32
			残胃全摘術	1
			噴門側胃切除術	3
			腹腔鏡下噴門側胃切除	5
			バイパス術	2
	その他	8		
胃GIST	11	胃部分切除術	4	
		腹腔鏡下胃部分切除術	3	
		腹腔鏡下噴門側胃切除術	1	
		幽門側胃切除術	2	
		腹腔鏡下幽門側胃切除術	1	
十二指腸	(良性) 十二指腸穿孔	11	単純閉鎖・大網被覆術	10
			腹腔鏡下单純閉鎖・大網被覆術	1
	(悪性) 十二指腸癌	5	バイパス術	2
			十二指腸部分切除術	1
			臍温存十二指腸切除術	2



小腸	(良性) 小腸穿孔	9	小腸部分切除術 (うち人工肛門造設術1例)	9
	上腸間膜動脈閉塞症	3	広範小腸切除術+右結腸切除術	3
	小腸壊死 (非閉塞性腸管虚血症)	2	小腸部分切除術	2
	その他	4		
	(悪性) 小腸癌	1	小腸部分切除	1
イレウス		51	腸管切除術	27
			人工肛門造設術	7
			腹腔鏡下癒着剝離術	1
			癒着剝離術	16
虫垂	(良性)	70	腹腔鏡下虫垂切除術	49
			虫垂切除術	8
			右結腸切除術	1
			腹腔鏡下回盲部切除術	2
			回盲部切除術	5
			盲腸切除術	3
			腹腔鏡下盲腸切除術	2
	(悪性)	4	結腸全摘術	1
		腹腔鏡下回盲部切除術	3	
炎症性腸疾患	潰瘍性大腸炎	7	大腸全摘術・回腸囊肛門(管)吻合術	1
			腹腔鏡下大腸全摘術・回腸囊肛門(管)吻合術	4
			残存直腸切除術	1
			結腸全摘術	1
	クローン病	4	回盲部切除術	1
			腹腔鏡下回盲部切除術	1
			腹腔鏡下小腸部分切除術	1
		腹腔鏡下小腸部分切除術	1	
	ベーチェット病	1	吻合部切除術	1
結腸	(良性) 大腸憩室穿孔 (穿通)	17	ハルトマン手術	14
			腹腔鏡下S状結腸切除術	1
	S状結腸軸捻症	3	S状結腸切除術	1
			腹腔鏡下結腸部分切除術	1

結腸	大腸良性腫瘍・ その他	7	結腸部分切除術	1
			結腸右半切除術	2
			回盲部切除術	1
			人工肛門造設術	2
	(悪性) 結腸癌	144	回盲部切除術	1
			腹腔鏡下回盲部切除術	14
			結腸右半切除術（右結腸切除 術含む）	18
			腹腔鏡下右半結腸切除術（右 結腸切除術含む）	18
			S状結腸切除術	17
			腹腔鏡下S状結腸切除術	28
			結腸部分切除術	13
			腹腔鏡下結腸部分切除術	6
			結腸全摘術	1
			腹腔鏡下結腸全摘術	1
			腹腔鏡下高位前方切除術	2
			ハルトマン手術	5
			経肛門的腫瘍切除術	1
		人工肛門造設術	8	
		ステント留置術	11	
直腸	(良性) 直腸穿孔	3	人工肛門造設術	3
	(悪性) 直腸癌	67	低位前方切除術	9
			腹腔鏡下低位前方切除術	6
			超低位前方切除術（ISR含む）	1
			腹腔鏡下超低位前方切除術 （ISR含む）	3
			腹会陰式直腸切断術	1
			腹腔鏡下腹会陰式直腸切断術	2
			ハルトマン手術	7
			高位前方切除術	5
			腹腔鏡下高位前方切除術	14
			残存結腸全摘術	1
			残存直腸切除術	1
			腹腔鏡下結腸左半切除術	1
		人工肛門造設術	12	

直腸			経肛門的腫瘍切除術	4
肛門	(良性)	30	痔核結紮切除術	7
			ALTA	3
			直腸固定術	4
			腹腔鏡下直腸固定術	1
			痔瘻根治術	13
			肛門狭窄形成術	2
肝	(悪性) 転移性肝癌	17	部分切除術	12
			区域切除術	2
			葉切除術	3
ヘルニア	鼠径	125	ヘルニア修復術 (Mesh Plug 法)	74
			ヘルニア修復術 (Direct Kugel 法)	17
			ヘルニア修復術 (UHS 法)	10
			その他	24
	大腿	3	ヘルニア修復術 (Mesh Plug 法)	2
			ヘルニア修復術 (Tension 法)	1
	閉鎖孔	3	ヘルニア修復術 (単純閉鎖術)	3
	腹壁癒痕	20	ヘルニア修復術 (単純閉鎖術)	17
ヘルニア修復術 (Mesh 法)			3	

## 当科における診療・研究・教育

---

### 教育

本学の医学部学生臨床実習は5年生が5～6人1組の実習組ごとに各科をローテーションします。消化器外科は各組の学生が大学病院または国際医療センターと、総合医療センターに分かれて実習しています。また、3年生がpre CCとして臨床実習の体験も始まっています。医師国家試験での問題も近年は臨床実習で学ばないと解けない問題も増加しており、埼玉医大での臨床実習時間も増加しています。

当科には常に3～4名の学生が実習することとなり、各学生はなるべく希望臓器に従ってチームに1名ずつ配属されます。消化管・一般外科では、食道癌中心のチーム、胃癌中心のチーム、そして大腸癌中心の3チーム体制で診療を行なっておりますが、その疾患だけを担当するわけではなく、どのチームに所属しても幅広い疾患の経験が可能になっています。また、当科の特徴としては緊急手術症例の多さです。消化器癌症例だけではなく、胃穿孔、大腸穿孔、腸閉塞、虫垂炎などの疾患も経験することができます。

実習では学生が手術を中心に検査、カンファレンス、回診などに参加することで、チームの一員として実地臨床の経験を積めるよう配慮しています。手術に関しては所属チームの手術には全症例、手洗いして参加してもらい、実際の手術を間近に見ながら質疑応答も行います。講義としては、結紫・鏡視下手術トレーニングボックスのほか、課題解説・総括などが各々の担当教官により行われています。

### 研究

当科は、日常臨床で多数の消化管悪性腫瘍の治療を行いながら、消化器癌の基礎研究にも熱意を注いでいます。食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍を中心に診療を通じて蓄えられた貴重な臨床的データと、患者様からインフォームドコンセントを経て得られた貴重な検体を活用して、日々研究に取り組み、新しい知見を追及しています。当科の研究室では、遺伝子レベルの研究を迅速にすすめる体制が構築されており、がんの発生・進展に関わる遺伝子群の探索や抗癌剤の治療効果予測因子・予後因子となる遺伝子群の検索など、癌の診断や治療にフィードバックできる臨床と基礎の架け橋になるような研究に取り組んでおります。さらに遺伝性腫瘍領域においては、家族性腫瘍専門医および臨床遺伝カウンセラーとともに、消化器腫瘍のみならず婦人科・泌尿器科・皮膚科領域においても臓器横断的に診療および研究を行っております。特に遺伝性大腸癌の1～5%を占め

ると推定されているリンチ症候群においては、日本医療研究開発機構（AMED）の研究助成を受け、大腸癌のみならず、関連腫瘍である胃癌・小腸癌・子宮内膜癌・皮膚腫瘍等のスクリーニングと診断等の研究成果を世界に向けて発信しております。

遺伝性大腸癌および類縁疾患の診断と体細胞レベルでの研究は埼玉県立がんセンター、順天堂大学大学院医学研究科、東京都健康長寿医療研究センターをはじめ全国の数施設との共同研究として進めています。その成果の一部はすでに世界に向けて発信されていますが、今後のさらなる飛躍に向けて日々尽力しているところです。



## 代表的疾患に対する治療方針

### ■食道癌

癌のstage、年齢、全身状態を総合的に評価し、治療法（内視鏡、手術、化学療法、放射線療法など）を決定しています。診断ではわれわれがオリンパス社と共同開発した細胞レベルまでの観察が可能な超拡大内視鏡エンドサイトスコープが市販され、これを使って精密な術前診断を行っております。さらに内視鏡診断にAIの導入が決定し、より見落としの少ない診断を目指します。治療法の決定に当たっては放射線科医、消化器科医と定期的にカンサーボードを開催し最善の治療を提供するよう心がけています。手術治療は右開胸・3領域郭清を原則としており、化学放射線治療後のサルベージ手術も行っています。腹臥位鏡視下食道切除術も早期癌に対して導入し、安定した成績を収めています。当院での食道癌手術の大きな特徴はICG蛍光法を用いた再建臓器の血流評価を行っていることです。食道再建術は食道癌手術において重要な役割を担っており、いかに鏡視下切除で低侵襲に切除しても再建が失敗すれば致命的になる場合もあります。われわれの食道再建術の合併症発生率は2%台であり、全国的に見ても非常に良好な成績を収めています。術前化学療法もJCOG9907にのっとりStage II、III食道癌に対して積極的に行っています。また、当科における食道癌の患者さんは、高度進行癌、高齢者、併存症の合併する場合が多いため、化学放射線療法もしくは放射線単独療法の治療も治療法の大きな柱と考えています。こちらも近年の化学放射線療法や栄養療法の進歩により、生存期間の延長が図られつつあり、さらなる成績の向上に努めています。

### ■胃癌・胃GIST

早期胃癌に対する治療は内視鏡治療の適応がある症例では、消化器肝臓内科との相談のうえESDを行っております。内視鏡治療適応外、ESD後の追加治療症例の早期胃癌では腹腔鏡下幽門側胃切除術、腹腔鏡下噴門側胃切除術、腹腔鏡下胃全摘術を行っております。2015年より吻合も体腔内で行う完全鏡視下を導入し良好な成績を上げています。また、これまでは、腹腔鏡下胃切除術はcT1からcT2N0を適応としていましたが、現在はT3N1症例まで適応を拡大しD2郭清を行っていません。

そのほかに、胃切除術後の消化管機能障害を改善するために、迷走神経腹腔枝温存胃切除術などの機能温存術式も積極的に採用しています。胃切除術後に消化管機能障害がある症例では、消化管運動機能を内圧測定法で評価し、運動機能の状態に応じて大建中湯、ガスマチン、グルタミンなどの薬剤を用いて治療を行っています。

T3N2以上の進行胃癌に対しては開腹による標準的な胃切除術を行いますが、術

前より根治切除不能因子がある場合は、化学療法を行います。高度進行胃癌に対する化学療法は標準治療であるS-1+cisplatin、Her2陽性胃癌に対してはXP+ハーセプチン（S-1+ cisplatin+ハーセプチン）、SOX、CapeOX、を第一選択として治療をしています。腎機能低下症例や高齢者では、標準治療が継続できない症例が多く、また、このような既往症を有する患者が非常に多いためSOX、CapeOXでの化学療法が増加しています。

化学療法によって根治切除不能因子が消失した場合には、積極的にconversion surgeryを行い、良好な成績を得ており、胃癌完治を目指しています。

ここ最近では、2nd lineからのconversion surgeryも増えてきており、あきらめない治療をこころがけています。

胃GISTも年間10-20症例と多く、治療としては腹腔鏡下手術（部分切除、幽門側胃切除、噴門側胃切除）を行っています。内腔突出型で噴門や幽門に近い症例では、胃切除を避けるべく、消化器肝臓内科と合同でLECS（Laparoscopy and Endoscopy Cooperative Surgery）も行っております。

## ■大腸癌

当科における大腸癌の診療はおおむね大腸癌治療ガイドライン（大腸癌研究会編、2016年度版）に準拠しています。当科はhigh risk症例が非常に多いのが特徴の一つですが、腹腔鏡手術については60%以上で施行されており、合併症の頻度等も従来の開腹手術と遜色ない成績を収めています。下部直腸癌症例に対しては、永久的な人工肛門を回避する超低位前方切除術（括約筋間切除を伴う）を以前から行っております。早期結腸・直腸癌においては原則的に全例腹腔鏡手術の適応となり、また、進行直腸癌では放射線科と合同で術前化学放射線療法を併用することにより、かなり肛門に近い癌に対しても括約筋温存術が可能になっています。

また、緊急処置を伴う閉塞性大腸癌に対しては、2012年に大腸ステントが保険収載されてから、当科でも24時間対応で積極的に行っております（当科は大腸ステント施行可能医が複数名おり、県内では2施設しかない大腸ステント安全手技研究会の前向き研究参加施設となっています）。特に左側大腸癌に対しては（下部直腸癌を除く）、大腸ステントを留置することにより人工肛門を造設することなく一時的に腸閉塞を解除することができるようになり、緊急手術や人工肛門造設を回避することで患者さんのQOL向上に寄与しています。

ステージIV進行大腸癌に対しては、集学的治療を積極的に行い、長期生存や治療を目指しています。切除可能な肝転移（同時性・異時性）については積極的に切除しています。また、化学療法の進歩により、当初切除不能な肝転移・肺転移・腹膜播種に関するconversion手術症例も近年増加してきています。切除不能例には原則的に標準化学療法を導入していますが、多施設共同臨床試験に参加することで、新規治療法も数多く施行しています。2017年8月から外来化学療法セン

ターがリニューアル・オープンし、患者さんにとってさらに安全・安心な治療を提供できると考えています。化学療法を行う全症例に対してall RAS (KRAS/NRAS) 遺伝子検査を行い、抗EGFR抗体使用可能症例に対しては積極的に導入を行っています。また症例に応じてBRAF 遺伝子検査 (2018年8月より保険収載済) やマイクロサテライト不安定性検査を導入し、オーダーメイドな治療が行える体制となっております。

## ■遺伝性大腸癌

全大腸癌の5%ほどを占める遺伝性大腸癌の患者数は年々増加しています。家族性大腸腺腫症、Lynch症候群、Peutz-Jeghers症候群、若年性ポリポシス症候群などの外科治療、消化器内視鏡検査、多臓器にわたるサーベイランス等を行っています。臨床研究の一環として、遺伝性大腸癌・消化管ポリポシスに関する遺伝子パネルによる遺伝子診断を受け付けており (日本医療研究開発機構からの研究助成)、全国からの受診者があります。遺伝子解析自体は順天堂大学大学院医学研究科および埼玉県立がんセンターとの共同研究で行っています。また専属の遺伝カウンセラーによる診療サポート体制も整備されています。家族性大腸腺腫症においては、腹腔鏡補助下大腸全摘・回腸囊肛門吻合術を基本としていますが、腺腫数や社会的適応により、内視鏡的サーベイランスや腹腔鏡補助下結腸全摘・回腸直腸吻合術も採用しています。また、密生型十二指腸ポリポシスに対しては臍温存十二指腸全切除術を5年前から導入しており、全国から紹介があります。Lynch症候群については血縁者診断も行い、長期間のサーベイランス計画を提示・遂行しています。

## ■炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎に対しては、内科的治療によるコントロール不良症例や中毒性巨大結腸症などの緊急症例に対し、消化器肝臓内科と協力体制をとり緊急手術を含めた手術治療を行っています。待期的に手術可能な場合には原則として、腹腔鏡補助下大腸全摘+回腸囊肛門 (管) 吻合術を行っており、良好な成績を収めています。

クローン病に対しては、病変による狭窄や膿瘍形成、穿孔などが手術適応となり、緊急手術になることが多いですが、常に対応できる体制をとっております。特に狭窄病変に対しては狭窄形成術を含めた、腸管温存を可能な限り心がけた術式を採用しています。クローン病の合併症として多い痔瘻や肛門病変に対してもSeton法によるドレナージなどで対応しています。

## ■肛門疾患

痔核に対しては標準的な結紮切除術のほか、簡便で安全なALTA硬化療法を当科でも導入しています。当院の特性上様々な併存疾患を有する症例にも施行していますが、重篤な合併症もなく良好な成績を得ています。この治療は、日本大腸肛門病学会の認定施設で修練した医師が、内痔核治療法研究会で認定された一定の知識と技術を習得して行います。また、痔核だけでなく痔瘻や裂肛、肛門狭窄、直腸脱などのあらゆる疾患に対応しています。

## ■腹部救急疾患

(上部消化管穿孔)

術前の臨床所見やCTでの腹水量から治療方針を決定しています。術式は開腹手術が中心ですが、状況によっては腹腔鏡下手術など低侵襲性手術も行っております。

(下部消化管穿孔) 予後不良な大腸穿孔に対しては、迅速かつ確実な手術に心がける一方、SSCG (Surviving sepsis campaign guidelines) に準拠した集中治療のほか、手術での工夫 (Hinchey I/IIでは一期的吻合、Hinchey III/IVではハルトマン手術、人工肛門周囲の創閉鎖の工夫など) を行っております。

術後重症例ではポリミキシンB固定化カラムによる直接血液灌流法やトロンボモジュリンの投与などを含めたDICを念頭に集学的治療を行い、septic shock/severe sepsis症例の救命率は70%以上と救命率も非常に高くなっております。埼玉県内では、abdominal sepsisを積極的に治療している施設であり、多くの知見を内外に発信しています。

## ■鼠径ヘルニア

原則的にtension free法を採用し、外鼠径ヘルニアにはMesh plug法、Lichtenstein法、内鼠径ヘルニアにはUHS法、Direct Kugel法を行っております。

まだ、前方アプローチが8割を占めますが、最近ではヘルニア分類I-1、I-2に関しては腹腔鏡下ヘルニア修復術も行っております。また、再発ヘルニアに対しては腹腔鏡を併用したハイブリッド手術を取り入れ、再発を起こさない手術を心がけております。入院日数は基本3泊4日ですが、患者さんの希望があれば術翌日の退院も可能です。

## 抄読会

2017年度

- |            |    |   |
|------------|----|---|
| 2017/04/26 | 熊谷 | Prediction of the invasion depth of superficial squamous cell carcinoma based on microvessel morphology: magnifying endoscopic classification of the Japan Esophageal Society.<br>Esophagus 2017; 14: 105-112 |
| 2017/05/15 | 福地 | The best surgical approach for perforated gastric cancer: one-stage vs. two-stage gastrectomy.<br>Gastric Cancer 2014; 17: 578-587  |
| 2017/06/14 | 天野 | Low-grade appendiceal mucinous neoplasm of uncertain malignant potential (LAMN-UMP): prognostic factors and implications for treatment and follow-up.<br>Ann Surg Oncol 2017; 24: 187-193                     |
| 2017/06/19 | 石畝 | Concomitant, bismuth quadruple, and 14-day triple therapy in the first-line treatment of Helicobacter pylori: a multicentre, open-label, randomised trial.<br>Lancet 2016; 388: 2355-2365                     |
| 2017/06/21 | 幡野 | Association between time to colonoscopy after a positive fecal test result and risk of colorectal cancer and cancer stage at diagnosis.<br>JAMA 2017; 317: 1631-1641  |
| 2017/06/28 | 村松 | Multicenter, prospective trial of selective drain management for pancreatoduodenectomy using risk stratification.<br>Ann Surg 2017; 265: 1209-1218  |
| 2017/07/05 | 近  | Pembrolizumab versus chemotherapy for PD-L1-positive non-small-cell lung cancer.<br>N Engl J Med 2016; 375: 1823-1833   |

2017/07/19	伊藤	Time to treatment and mortality during mandated emergency care for sepsis. N Engl J Med 2017; 376: 2235-2244
2017/07/26	山本 (梓)	Cyclooxygenase-2 is essential for colorectal anastomotic healing. Ann Surg 2017; 265: 547-554
2017/08/02	近谷	Perfusion assessment in laparoscopic left-sided/ anterior resection (PILLAR II): a multi-institutional study. J Am Coll Surg 2015; 220: 82-92
2017/09/13	石川 (博)	Efficacy and safety of procalcitonin guidance in reducing the duration of antibiotic treatment in critically ill patients: a randomised, controlled, open-label trial. Lancet Infect Dis 2016; 16: 819-827
2017/09/20	牟田	Usefulness of gum chewing to decrease postoperative ileus in colorectal surgery with primary anastomosis: A randomized controlled trial. Rev Invest Clin 2016; 68: 314-318
2017/09/27	熊谷	Blood flow speed of the gastric conduit assessed by indocyanine green fluorescence: New predictive evaluation of anastomotic leakage after esophagectomy. Medicine (Baltimore)2016; 95: e4386
2017/10/02	福地	Conversion therapy for inoperable advanced gastric cancer patients by docetaxel, cisplatin, and S-1 (DCS) chemotherapy: a multi-institutional retrospective study. Gastric Cancer 2017; 20: 517-526
2017/10/18	天野	Predictors of complications and mortality in patients



with self-expanding metallic stents for the palliation of malignant colonic obstruction.  
*GE Port J Gastroenterol* 2017; 24: 122-128

2017/10/25 石畝 Association between laparoscopic antireflux surgery and recurrence of gastroesophageal reflux.  
*JAMA* 2017; 318: 939-946

2017/11/08 鈴木 Target gene mutational pattern in Lynch syndrome colorectal carcinomas according to tumour location and germline mutation.  
*Br J Cancer* 2015; 113: 686-692

2017/11/13 村松 New onset of diabetes and pancreatic exocrine insufficiency after pancreaticoduodenectomy for benign and malignant tumors: A systematic review and meta-analysis of long-term results.  
*Ann Surg* 2018; 267: 259-270

2017/11/13 近 Nonpolypoid colorectal neoplasms: a challenge in endoscopic surveillance of patients with Lynch syndrome.  
*Endoscopy* 2013; 45: 257-264

2017/12/06 山本梓 Long-term recurrence and complications associated with elective incisional hernia repair.  
*JAMA* 2016; 316: 1575-1582

2017/12/06 伊藤 Biomarker-based strategy for early discontinuation of empirical antifungal treatment in critically ill patients: a randomized controlled trial.  
*Intensive Care Med* 2017; 43: 1668-1677

2017/12/20 近谷 Organ preservation for clinical T2N0 distal rectal cancer using neoadjuvant chemoradiotherapy and local excision (ACOSOG Z6041): results of an open-label, single-arm, multi-institutional, phase 2 trial.



Lancet Oncol 2015; 16: 1537–1546

- 2018/03/14 熊谷 Application of artificial intelligence using a convolutional neural network for detecting gastric cancer in endoscopic images.  
Gastric Cancer 2018 doi: 10. 1007/s10120–018–0793–2
- 2018/03/19 福地 The long-term survival of stage IV gastric cancer patients with conversion therapy.  
Gastric Cancer 2018; 21: 315–323

### 和文

#### 著書・分担執筆

1. 石田秀行  
日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2018-2019  
12. 大腸癌  
メディカルビュー社, 大阪, pp. 282-289, 2018

#### 総説・解説

1. 石田秀行, 近範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫.  
遺伝性大腸癌の基礎と臨床.  
臨床消化器内科 32 : 55-60, 2017
2. 熊谷洋一, 川田研郎, 田久保海誉, 石田秀行.  
超拡大内視鏡 (Endocytoscopy system) による食道病変の診断.  
日本消化器内視鏡学会雑誌 59 : 207-218, 2017
3. 石田秀行, 山口達郎, 田中屋宏爾, 赤木究, 関根茂樹, 下平秀樹, 富田尚裕,  
杉原健一, 渡邊聡明.  
遺伝性大腸癌診療ガイドライン—改訂の要点—  
癌と化学療法 44 : 986-989, 2017
4. 熊谷洋一, 田久保海誉, 川田研郎, 天野邦彦, 傍島 , 石畝亨, 幡野哲, 伊藤徹哉, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
Endocytoscopy による食道病変の観察.  
日本気管食道科学会会報 68 : 136-138, 2017
5. 石田秀行.  
遺伝性大腸癌に対する日常診療.  
日本外科学会誌 119 : 62-66, 2018

6. 石田秀行, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫.  
遺伝性大腸ポリポーシス.  
成人病と生活習慣病 47 : 845-850. 2017
7. 持木彫人, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
消化管吻合術後の整理と評価.  
臨床外科 72 (別冊) : 388-382. 2017
8. 熊谷洋一, 川田研郎, 田久保海誉, 天野邦彦, 傍島潤, 石畝亨, 幡野哲, 伊藤徹哉, 近範泰, 牟田優, 山本梓, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
拡大内視鏡による好酸球性食道炎の画像診断.  
胃と腸 53 : 333-338, 2018
9. 村松俊輔, 天野邦彦, 幡野哲, 石田秀行.  
大腸憩室炎に対する治療戦略と手術.  
手術 72 : 265-270, 2018

## 原著

1. 傍島潤, 幡野哲, 大澤智徳, 岡田典倫, 横山勝, 中田博, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
直腸癌に対する括約筋温存術時の経腹的側端吻合における手術部位感染の発生状況とリスク因子.  
日本外科系連会誌 42 : 154-160, 2017
2. 天野邦彦, 近範泰, 伊藤徹哉, 山本梓, 幡野哲, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 江口英孝, 岡崎康司, 猪熊滋久, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症に合併するデスマイド腫瘍の特徴と治療成績.  
癌と化学療法 44 : 1449-1451, 2017

3. 小倉俊郎, 牟田優, 伊藤徹哉, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
大腸癌肝転移切除例における原発巣占拠部位の予後への影響.  
癌と化学療法 44 : 1461-1463, 2017
4. 伊藤徹哉, 福地稔, 近範泰, 天野邦彦, 幡野哲, 石畝亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
高齢者大腸癌穿孔症例の治療成績.  
癌と化学療法 44 : 1311-1313, 2017
5. 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
胃癌穿孔に対する手術症例の臨床病理学的検討.  
癌と化学療法 45 : 309-311, 2018
6. 小倉俊郎, 牟田優, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 猪熊滋久, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
術前化学療法を施行した大腸癌肝転移切除症例における肝所属リンパ節転移の状況.  
癌と化学療法 45 : 339-341, 2018

## 症例報告

1. 熊倉真澄, 小倉俊郎, 牟田優, 伊藤徹哉, 山本梓, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 持木彫人, 石田秀行.  
潰瘍性大腸炎に伴う結腸癌後腹膜穿通に対する大腸全摘術後FDG/PET陰性の局所再発を来した1例.  
癌と化学療法 44 : 1464-1466, 2017

## その他

1. 持木彫人.  
腹腔鏡の胃がん手術で高実績「地域完結型医療」へ挑戦  
夕刊フジ : 3. 2, 2018

2. 石田秀行.  
消化器Q & A 家族に大腸がんが多い  
場合はどうしたらいいでしょうか？  
消化器のひろば 12：10-11, 2018
  
3. 石田秀行.  
埼玉県外科医会常任理事を拝命して.  
埼玉県外科医会会報 37：10-11, 2018

## 英文 原著・ガイドライン

1. Kobayashi H, Ishida H, Ueno H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K. Association between the age and the development of colorectal cancer in patients with familial adenomatous polyposis: a multi-institutional study. *Surg Today* 47: 470–475, 2017
2. Watanabe T, Muro K, Ajioka Y, Hashiguchi Y, Ito Y, Saito Y, Hamaguchi T, Ishida H, Ishiguro M, Ishihara S, Kanemitsu Y, Kawano H, Kinugasa Y, Kokudo N, Murofushi K, Nakajima T, Oka S, Sakai Y, Tsuji A, Uehara K, Ueno H, Yamazaki K, Yoshida M, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Itabashi M, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Shimada Y, Takahashi K, Tanaka S, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yamaguchi N, Tanaka T, Kotake K, Sugihara K; Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum. Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) guidelines 2016 for the treatment of colorectal cancer. *Int J Clin Oncol* 23: 1–34, 2018
3. Suzuki O, Eguchi H, Chika N, Sakimoto T, Ishibashi K, Kumamoto K, Tamaru J, Tachikawa T, Akagi K, Arai T, Okazaki Y, Ishida H. Prevalence and clinicopathologic/molecular characteristics of mismatch repair-deficient colorectal cancer in the under-50-year-old Japanese population. *Surg Today* 47: 1135–1146, 2017
4. Yamadera M, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Ishida H, Sugihara K. Current status of prophylactic surgical treatment for familial adenomatous polyposis in Japan. *Surg Today* 47: 690–696, 2017

5. Tanaka M, Kanemitsu Y, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Inoue Y, Tomita N, Ishida H, Sugihara K. Prognostic impact of hospital volume on familial adenomatous polyposis: a nationwide multicenter study. *Int J Colorectal Dis* 32: 1489–1498, 2017
6. Fukuchi M, Mochiki E, Ishiguro T, Ogura T, Sobajima J, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H. Efficacy of conversion surgery following S-1 plus cisplatin or oxaliplatin chemotherapy for unresectable gastric cancer. *Anticancer Res* 37: 1343–1348, 2017
7. Inoue Y, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Yamaguchi T, Konishi T, Tomita N. The treatment of desmoid tumors associated with familial adenomatous polyposis: the results of a Japanese multicenter observational study *Surg Today* 47: 1259–1267, 2017
8. Kumagai Y, Takubo K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H. A newly developed continuous zoom-focus endocytoscope *Endoscopy* 49: 176–180, 2017
9. Konishi T, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Yamaguchi T, Tomita N, Matubara N, Watanabe T, Sugihara K. Postoperative complications after stapled and hand-sewn ileal pouch-anal anastomosis for familial adenomatous polyposis: A multicenter study. *Ann Gastroenterol Surg* 20: 143–149, 2017



10. Takesue Y, Kusachi S, Mikamo H, Sato J, Watanabe A, Kiyota H, Iwata S, Kaku M, Hanaki H, Sumiyama Y, Kitagawa Y, Mizuguchi T, Ambo Y, Konosu M, Ishibashi K, Matsuda A, Hase K, Harihara Y, Okabayashi K, Seki S, Hara T, Matsui K, Matsuo Y, Kobayashi M, Kubo S, Uchiyama K, Shimizu J, Kawabata R, Ohge H, Akagi S, Oka M, Wakatsuki T, Suzuki K, Okamoto K, Yanagihara K.  
Antimicrobial susceptibility of pathogens isolated from surgical site infections in Japan: Comparison of data from nationwide surveillance studies conducted in 2010 and 2014–2015.  
*J Infect Chemother* 23: 339–348, 2017
11. Kumamoto K, Ishida H, Kuwabara K, Amano K, Chika N, Okada N, Ohsawa T, Kumagai Y, Ishibashi K.  
Clinical significance of serum anti-p53 antibody expression following curative surgery for colorectal cancer.  
*Mol Clin Oncol* 7: 595–600, 2017
12. Kumagai Y, Tachikawa T, Higashi M, Sobajima J, Takahashi A, Amano K, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Yakabi K, Tamaru J, Ishida H  
Thymidine phosphorylase and angiogenesis in early stage esophageal squamous cell carcinoma  
*Esophagus* 15: 19–26, 2018
13. Takao M, Yamaguchi T, Eguchi H, Tada Y, Kohda M, Koizumi K, Horiguchi S, Okazaki Y, Ishida H.  
Characteristics of MUTYH variants Japanese colorectal polyposis patients.  
*Int J Clin Oncol* 23: 497–503, 2018
14. Kawaguchi T, Azuma K, Sano M, Kim S, Kawahara Y, Sano Y, Shimodaira T, Ishibashi K, Miyaji T, Basch E, Yamaguchi T.  
The Japanese version of the National Cancer Institute’s patient-reported outcomes version of the common terminology criteria for adverse events (PRO-CTCAE): psychometric validation and discordance between clinician and patient assessments of adverse events.  
*J Patient Rep Outcomes* 2017; 2 (1):2. doi: 10.1186/s41687-017-0022-5. Epub 2018 Jan 5.

15. Ishida H, Yamaguchi T, Tanakaya K, Akagi K, Inoue Y, Kumamoto K, Shimodaira H, Sekine S, Tanaka T, Chino A, Tomita N, Nakajima T, Hasegawa H, Hinoi T, Hirazawa A, Miyakura Y, Murak Kanemitsu Y, Kawano H, Kinugasa Y, Kokudo N, Murofushi K, Nakjima T, Oka S, Sakai Y, Tsuji A, Uehara K, Ueno H, Yamazaki K, Yoshida M, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Itabashi M, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Shimada Y, Takahashi K, Tanaka S, Tsuruta O, Yamaguchi T, Sugihara K, Watanabe T.  
Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum (JSCCR) Guidelines 2016 for the Clinical Practice of Hereditary Colorectal Cancer (Translated Version).  
J Anus Rectum Colon 2 (Suppl): 1-51, 2018
16. Fukuchi M, Mochiki E, Ishiguro T, Saito K, Naitoh H, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H.  
Prognostic impact of splenectomy in patients with esophagogastric junction carcinoma.  
In Vivo 32: 145-149, 2018
17. Imaizumi H, Ishibashi K, Takenoshita S, Ishida H.  
Aquaporin 1 expression is associated with response to adjuvant chemotherapy in stage II and III colorectal cancer.  
Oncol Lett 15: 6450-6456, 2018
18. Ishida H, Ishibashi K, Iwama T  
Malignant tumors associated with juvenile polyposis syndrome in Japan.  
Surg Today 48: 253-263, 2018
19. Suto T, Ishiguro M, Hamada C, Kunieda K, Masuko H, Kondo K, Ishida H, Nishimura G, Sasaki K, Morita T, Hazama S, Maeda K, Mishima H, Ike H, Sadahiro S, Sugihara K, Okajima M, Saji S, Sakamoto J, Tomita N.  
Preplanned safety analysis of the JFMC37-0801 trial: a randomized phase III study of six months versus twelve months of capecitabine as adjuvant chemotherapy for stage III colon cancer.  
Int J Clin Oncol 22: 494-504, 2017

20. Kumagai Y, Takubo K, Ishida H.  
Acrinol: Dye with potential for nuclear staining in confocal laser endomicroscopy.  
Dig Endosc 29: 811-812, 2017
21. Kosugi C, Koda K, Ishibashi K, Yoshimatsu K, Tanaka S, Kato R, Kato H, Oya M, Narushima K, Mori M, Shuto K, Ishida H.  
Safety of mFOLFOX6/XELOX as adjuvant chemotherapy after curative resection of stage III colon cancer: phase II clinical study (The FACOS study).  
Int J Colorectal Dis 33:809-817, 2018

## 2018. 4～2018. 9掲載

1. 石田秀行.  
忘れられない症例 家族性大腸腺腫症に合併したデスマイド腫瘍の姉妹例.  
消化器外科 41 : 967-969, 2018
2. 石田秀行, 石橋敬一郎, 田島雄介  
Peutz-Jeghers 症候群.  
産科と産婦人科 6 : 621-625,2018
3. Sada H, Hinoi T, Ueno H, Yamaguchi T, Inoue Y, Konishi T, Kobayashi H, Kanemitsu Y, Ishida F, Ishida H, Tomita N, Matsubara N, Sugihara K.  
Prevalence of and risk factors for thyroid carcinoma in patients with familial adenomatous polyposis: results of a multicenter study in Japan and a systematic review.  
Surg Today 2018 Sep 4. doi: 10.1007/s00595-018-1710-3. [Epub ahead of print

4. Miguchi M, Hinoi T, Tanakaya K, Yamaguchi T, Furukawa Y, Yoshida T, Tamura K7, Sugano K, Ishioka C, Matsubara N, Tomita N, Arai M, Ishikawa H, Hirata K, Saida Y, Ishida H, Sugihara K.  
Alcohol consumption and early-onset risk of colorectal cancer in Japanese patients with Lynch syndrome: a cross-sectional study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.  
*Surg Today* 2018 48 (8): 810–814. doi: 10.1007/s00595–018–1654–7. Epub 2018 Mar 24.
5. Tajima Y, Eguchi H, Chika N, Nagai T, Dechamethakun S, Kumamoto K, Tachikawa T, Akagi K, Tamaru JI, Seki H, Okazaki Y, Ishida H.  
Prevalence and molecular characteristics of defective mismatch repair epithelial ovarian cancer in a Japanese hospital-based population.  
*Jpn J Clin Oncol* 48: 728–735, 2018
6. Kuwabara K, Suzuki O, Chika N, Kumamoto K, Minabe T, Fukuda T, Arai E, Tamaru JI, Akagi K, Eguchi H, Okazaki Y, Ishida H.  
Prevalence and molecular characteristics of DNA mismatch repair protein-deficient sebaceous neoplasms and keratoacanthomas in a Japanese hospital-based population.  
*Jpn J Clin Oncol* 48: 514–521, 2018
7. Kumagai Y, Hatano S, Sobajima J, Ishiguro T, Fukuchi M, Ishibashi KI, Mochiki E, Nakajima Y, Ishida H. Indocyanine green fluorescence angiography of the reconstructed gastric tube during esophagectomy: efficacy of the 90-second rule.  
*Dis Esophagus* 2018 Jun 12. doi: 10.1093/dote/doy052. [Epub ahead of print]
8. Kumagai Y, Tachikawa T, Higashi M, Sobajima J, Takahashi A, Amano K, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Yakabi K, Tamaru JI, Ishida H.  
Thymidine phosphorylase and angiogenesis in early stage esophageal squamous cell carcinoma.  
*Esophagus*. 15:19–26, 2018

9. Kumagai Y, Tachikawa T, Higashi M, Sobajima J, Takahashi A, Amano K, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Yakabi K, Tamaru J, Ishida H. Vascular endothelial growth factors C and D and lymphangiogenesis at the early stage of esophageal squamous cell carcinoma progression. *Dis Esophagus* 2018 1; 31 (8). doi: 10.1093/dote/doy011.
  
10. Yamazaki K, Taniguchi H, Yoshino T, Akagi K, Ishida H, Ebi H, Nakatani K, Muro K, Yatabe Y, Yamaguchi K, Tsuchihara K. Japanese Society of Medical Oncology Clinical Guidelines: Molecular Testing for Colorectal Cancer Treatment, Third Edition. *Cancer Sci* 109:2074–2079, 2018

### 国内学会・研究会

1. 石橋敬一郎, 鈴木興秀, 近範泰, 伊藤徹哉, 幡野哲, 天野邦彦, 隈元謙介, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
50歳未満大腸癌におけるミスマッチ修復タンパク質欠失症例の予測因子の検討.  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (サージカルフォーラム) 4/27 (木)
2. 小倉俊郎, 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 近範泰, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症に合併する十二指腸ポリポーシスの治療戦略.  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-19 (サージカルフォーラム) 4/28 (金)
3. 近範泰, 伊藤徹哉, 小倉俊郎, 天野邦彦, 石橋敬一郎, 江口英孝, 石川秀樹, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症における大腸切除後の随伴病変の対応.  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-19 (ポスターセッション) 4/27 (木)
4. 石畝亨, 持木彫人, 福地稔, 小倉俊郎, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
切除不能進行・再発胃癌に対するSOX/CapeOX療法の一次治療としての効果.  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (ポスターセッション) 4/28 (金)
5. 伊藤徹哉, 石橋敬一郎, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 隈元謙介, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
若年性ポリポーシス症候群 (Juvenile polyposis syndrome: JPS) に合併する悪性腫瘍一本邦報告例からの検討.  
第117回日本外科学会定期集会, 横浜, 2017.4.27-29 (ポスターセッション) 4/28 (金)

6. 田中屋宏爾, 山口達郎, 檜井孝夫, 隈元謙介, 平田敬治, 齊田芳久, 松原長秀, 富田尚裕, 石田秀行, 渡邊聡明, 杉原健一.  
日本人リンチ症候群の関連腫瘍に関する検討: 多施設共同研究.  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (サージカルフォーラム) 4/29 (土)
7. 熊谷洋一  
超拡大内視鏡Endocytoscopy system (ECS) 開発の経緯と上部消化管粘膜のECS診断.  
第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.27-29 (ランチョンセミナー) 4/29 (土)
8. 熊谷洋一, 傍島潤, 石畝亨, 天野邦彦, 近範泰, 伊藤徹哉, 幡野哲, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
組織構造, 血管新生から考える食道癌の拡大.  
第93回日本消化器内視鏡学会総会, 大阪, 2017.5.11-13 (一般口演) 5/11 (木)
9. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
切除不能進行胃癌に対する conversion surgery で脾臓温存は可能か.  
第71回手術手技研究会, 名古屋, 2017.5.26-27 (サージカルフォーラム) 5/26 (金)
10. 石畝亨, 持木彫人, 小倉俊郎, 福地稔, 熊谷洋一, 石田秀行.  
迷走神経腹腔枝温存腹腔鏡下幽門側胃切除術における消化管運動機能.  
第71回手術手技研究会, 名古屋, 2017.5.26-27 (サージカルフォーラム) 5/26 (金)
11. 石川葵, 福地稔, 石畝亨, 持木彫人, 石田秀行.  
CapeOX療法でCRが得られた胃癌術後腹膜播種の1例.  
日本消化器病学会 関東支部第344回例会, 東京, 2017.5.27 (口演) 5/27 (土)
12. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
切除不能進行胃癌に対する conversion surgery の治療成績—特に高齢者に対して—  
第26回日本癌病態治療研究会, 横浜, 2017.6.1-2 (ワークショップ) 6/1 (木)



13. 西村敬一郎, 山野貴史, 鷺巣佳奈, 新保宗史, 畑中星吾, 村田修, 本戸幹人, 石橋敬一郎, 石田秀行, 高橋健夫.  
当院における局所進行下部直腸癌に対す術前化学放射線療法 of 検討.  
第26回日本癌病態治療研究会, 横浜, 2017.6.1-2 (示説) 6/1 (木)
14. 熊谷洋一, 天野邦彦, 小倉俊郎, 幡野哲, 石畝亨, 傍島潤, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
組織構造, 血管新生から考える食道癌の拡大内視鏡分類.  
第71回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017.6.15-16 (パネルディスカッション) 6/16 (金)
15. 福地稔, 石畝亨, 小倉俊郎, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における特発性食道破裂の治療経験.  
第71回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017.6.15-16 (示説) 6/16 (金)
16. 大田俊介, 熊谷洋一, 山崎繁, 河野辰幸.  
ICG蛍光法による再建胃管血流評価に有用性: 術後胃管内視鏡観察との比較.  
第71回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017.6.15-16 (示説) 6/16 (金)
17. 田島雄介, 近範泰, 天野邦彦, 岩間毅夫, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症に対する大腸全摘・回腸囊肛門吻合術後の残存直腸病変に対する sleeve resection.  
骨盤外科機能温存研究会, 東京, 2017.6.10 (口演) 6/10 (土)
18. 桑原公亀, 近範泰, 鈴木興秀, 伊藤徹哉, 伊崎誠一, 福田知雄, 江口英孝, 岡崎康司, 赤木究, 石田秀行.  
MSH2の生殖細胞系列変異を原因とするリンチ症候群1家系.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (口演) 6/23 (金)
19. 小倉俊郎, 伊藤徹哉, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
大腸癌肝転移切除例における原発巣占拠部位の予後への影響.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (口演) 6/23 (金)

20. 小倉俊郎, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 猪熊滋久, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
術前化学療法を施行した大腸癌肝転移切除症例における肝所属リンパ節転移の現況.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (示説) 6/23 (金)
21. 天野邦彦, 近範泰, 伊藤徹哉, 山本梓, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 江口英孝, 岡崎康司, 猪熊滋久, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症に合併するデスマイド腫瘍の特徴と治療方法.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (口演) 6/23 (金)
22. 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行  
当科における胃癌穿孔症例の臨床病理学的検討.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (口演) 6/23 (金)
23. 熊倉真澄, 小倉俊郎, 伊藤徹哉, 山本梓, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
潰瘍性大腸炎に伴う結腸癌術後腹膜穿通手術後, FDG-PET 陰性の局所再発をきたした1例.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (示説) 6/23 (金)
24. 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 幡野哲, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における高齢者大腸穿孔症例の治療成績.  
第39回日本癌局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (口演) 6/23 (金)
25. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 小倉俊郎, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
当科における切除不応進行・再発胃癌に対する二次治療の成績.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/22 (土)
26. 熊谷洋一, 傍島潤, 石畝亨, 小倉俊郎, 天野邦彦, 幡野哲, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における胃管再建でのICG蛍光法使用方法:90秒ルールの妥当性.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ワークショップ) 7/21 (金)

27. 幡野哲, 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における左側大腸癌イレウスに対する治療成績.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (要望演題) 7/20 (木)
28. 石畝亨, 持木彫人, 福地稔, 小倉俊郎, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
切除不能進行胃癌に対する化学療法変遷に伴う conversion surgery の意義.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-21 (ミニオーラル) 7/20 (木)
29. 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
切除不能大腸癌に対する oxaliplatin-base 治療の占居部位別の治療成績.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/20 (木)
30. 木暮憲道, 鈴木雅貴, 矢野間透, 木村明春, 渡辺亮, 矢内充洋, 緒方杏一, 持木彫人, 桑野博行.  
成犬を用いた十二指腸切離後における消化管運動の検討.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/21 (金)
31. 持木彫人, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
腹腔鏡下迷走神経腹腔枝温存幽門側胃切除術における消化管運動機能と栄養状態.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/20 (木)
32. 田中屋宏爾, 山口達郎, 檜井孝夫, 平田政治, 斉田芳久, 松原長秀, 富田尚裕, 石田秀行, 渡邊聡明, 杉原健一.  
リンチ症候群における大腸癌術後多臓器重複癌の検討.  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/21 (金)

33. 母里淑子, 永坂岳司, 角田美穂, 山口達郎, 田中屋宏爾, 山下健太郎, 野水整, 檜井孝夫, 石田秀行, 赤木究.  
Lynch Syndromeに対する化学療法.  
第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29 (International Symposium) 7/29 (土)
34. 近範泰, 江口英孝, 天野邦彦, 構奈央, 伊藤徹哉, 山本梓, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 岡崎康司, 石田秀行.  
遺伝学検査によりLi-Fraumeni症候群と確定診断された若年者直腸癌の1例.  
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会, 札幌, 2017.8.4-5 (示説) 8/4 (金)
35. 構奈央, 近範泰, 鈴木興秀, 桑原公亀, 石橋敬一郎, 三鍋俊春, 福田知雄, 立川哲彦, 赤木究, 江口英孝, 岡崎康司, 石田秀行.  
皮脂腺腫瘍患者からのリンチ症候群スクリーニングの試み.  
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会, 札幌, 2017.8.4-5 (示説) 8/4 (金)
36. 伊藤徹哉, 近範泰, 鈴木興秀, 構奈央, 岡田洋平, 諸角誠人, 川上理, 江口英孝, 岡崎康司, 立川哲彦, 赤木究, 石田秀行.  
日本人腎盂・尿管癌症例におけるLynch症候群のスクリーニングの試み.  
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会, 札幌, 2017.8.4-5 (示説) 8/4 (金)
37. 田島雄介, 江口英孝, 近範泰, 鈴木興秀, 長井智則, 立川哲彦, 赤木究, 田丸淳一, 関博之, 岡崎康司, 石田秀行.  
卵巣癌患者のミスマッチ修復タンパク欠失および遺伝子異常の頻度と関連性.  
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会, 札幌, 2017.8.4-5 (示説) 8/4 (金)
38. 山本梓, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 長井智則, 高井泰, 関博之, 立川哲彦, 赤木究, 江口英孝, 岡崎康司, 石田秀行.  
ミスマッチ修復タンパクに対する免疫染色を用いた子宮体癌におけるリンチ症候群の頻度の推定.  
第23回日本家族性腫瘍学会学術集会, 札幌, 2017.8.4-5 (口演) 8/4 (金)
39. 石橋敬一郎, 大西京子, 山田康子, 川村勇樹, 加藤仁, 辻美隆, 森茂久, 土田哲也.  
医学部1年生臨床入門「バイタルサイン」実習における問題点.  
第49回日本医学教育学会大会, 札幌, 2017.8.18-19 (ポスター) 8/18 (金)

40. 森茂久, 大西京子, 有田和恵, 柴崎智美, 杉山智江, 加藤仁, 山田泰子, 川村勇樹, 荒木隆一郎, 石橋敬一郎, 土田哲也, 別所正美, 鈴木美香, 斎藤栄子, 戸川修子, 武藤光代.  
埼玉医科大学医学部における看護業務体験実習の評価 第8報  
第49回日本医学教育学会大会, 札幌, 2017.8.18-19 (ポスター) 8/18 (金)
41. 田中久美子, 寺前智史, 藤野泰輝, 岡本耕一, 佐藤康史, 六車直樹, 高山哲治, 小倉俊郎, 石畝亨, 石田秀行.  
胆管癌及び十二指腸癌を合併した家族性大腸腺腫症の一例.  
第5回家族性大腸腺腫症研究会学術集会, 東京, 2017.9.8 (口演) 9/8 (金)
42. 熊谷洋一, 田久保海誉, 傍島潤, 石畝亨, 福地稔, 石橋敬一郎, 幡野哲, 天野邦彦, 近範泰, 伊藤徹哉, 小倉俊郎, 持木彫人, 石田秀行.  
Endocytoscopy systemで観察する逆流性食道炎, Barrett粘膜, Barrett食道癌の特徴.  
第25回日本消化器関連学会週間 (消化器内視鏡学会)  
(JDDW2017FUKUOKA), 福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスターセッション) 10/12 (木)
43. 小倉俊郎, 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
肝転移切除例における大腸癌占拠部位の予後への影響.  
第25回日本消化器関連学会集会 (消化器外科学会) (JDDW 2017 FUKUOKA), 福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスターセッション) 10/12 (木)
44. 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
切除不能大腸癌に対する3次治療抗EGFR抗体の治療成績: 原発巣占居部位別.  
第25回日本消化器関連学会集会 (消化器外科学会) (JDDW 2017 FUKUOKA), 福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスターセッション) 10/14 (土)
45. 天野邦彦, 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 山本梓, 近範泰, 幡野哲, 隈元謙介, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
75歳以上高齢者切除不能大腸癌に対する1次治療 oxaliplatin-base の治療成績.  
第25回日本消化器関連学会集会 (消化器外科学会) (JDDW 2017 FUKUOKA), 福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスターセッション) 10/14 (土)

46. 石田秀行, 近範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 山口達郎, 田中屋宏爾, 松原長秀, 冨田尚裕, 野水整, 大木進司, 高山哲治, 石川秀樹, 赤木究, 江口英孝, 岡崎康司.  
遺伝性大腸癌—診断の進歩と実地臨床.  
第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22 (シンポジウム) 10/22 (日)
47. 金素安, 川口崇, 宮路天平, 東加奈子, 佐野元彦, 河原陽平, 佐野陽子, 下平智秀, 関貴之, 石橋敬一郎, 関貴善, 山口拓洋  
PRO-CTCAEおよびCTCAEを用いた医療者と患者における有害事象評価の不一致に関する研究.  
第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22 (口演) 10/22 (日)
48. 河原陽介, 川口崇, 宮路天平, 東加奈, 佐野元彦, 金素安, 鳥居綾子, 山田裕里, 鮎原秀明, 石橋敬一郎, 大久保淳史, 山口拓洋.  
日本版PRO-CTCAEの信頼性・妥当性に関する研究.  
第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22 (口演) 10/22 (日)
49. 幡野哲, 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
Oxaliplatin使用患者における大腸癌腹膜播種の予後因子の検討.  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (口演) 11/10 (金)
50. 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 田島雄介, 大澤智徳, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
結腸癌Stage IIIに対するoxaliplatin-base補助化学療法の治療成績.  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (口演) 11/10 (金)
51. 田島雄介, 近範泰, 天野邦彦, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
肛門日帰り手術の腰椎麻酔薬投与量の違いによる腰椎麻酔後頭痛の発生率と安全性の検討.  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (口演) 11/10 (金)



52. 幸田圭史, 板橋道朗, 船橋公彦, 小池淳一, 石田秀行, 石橋敬一郎, 吉松和彦, 横溝肇, 菅隼人, 山田岳史, 斉田芳久, 榎本俊之, 勝又健次, 長谷川博俊, 落合匠, 坂本一博, 天野邦彦, 小杉千弘, 小川真平, 亀岡信悟.  
Stage II / III直腸癌に対する術前化学療法 (mFOLFOX6) の中間評価 多施設共同第II相臨床試験 (FACT試験)  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (口演) 11/11 (土)
53. 大澤智徳, 堀内敦, 近範泰, 田島雄介, 天野邦彦, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
痔疾患に対する紫雲膏の有用性の検討.  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (要望演題) 11/11 (土)
54. 緒方杏一, 木村明春, 鈴木雅貴, 中澤信博, 矢野間透, 生方泰成, 岩松清人, 持木彫人, 桑野博行.  
内圧測定プローブを用いた腹腔鏡下幽門側胃切除術および噴門側胃切除術後消化管運動機能の客観的評価.  
第47回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017.11.3-4 (ワークショップ) 11/3 (金)
55. 石畝亨, 持木彫人, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
胃上部胃癌に対する術式 (腹腔鏡下) の検討—腹腔鏡下幽門側胃切除術? 腹腔鏡下胃全摘術?—  
第47回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017.11.3-4 (示説) 11/4 (土)
56. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 斎藤加奈, 内藤浩, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
進行食道胃接合部癌の術式として脾臓摘出術は必要か?  
第47回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017.11.3-4 (シンポジウム) 11/4 (土)
57. 近範泰, 江口英孝, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 岡崎康司, 石田秀行.  
わが国におけるミスマッチ修復タンパク発現異常を示す初発大腸癌の特徴.  
第28回日本消化器癌発生学会総会・第9回国際消化器癌発生会議, 熊本, 2017.11.17-18 (口演) 11/18 (土)



58. 熊谷洋一, 村松俊輔, 石川葵, 傍島潤, 山本梓, 牟田優, 伊藤徹哉, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
縫合不全0を目指して: 90秒ルールの妥当性.  
第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.23-25 (主題関連演題) 11/25 (土)
59. 幡野哲, 伊藤徹哉, 石川葵, 牟田優, 近谷賢一, 近範泰, 山本梓, 村松俊輔, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
大腸癌穿孔の遠隔成績に原発巣の部位の影響はあるか?  
第30回日本外科感染症学会総会学術集会, 東京, 2017.11.29-30 (示説) 11/30 (木)
60. 福地稔, 石畝亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
胃内病変を併発した特発性食道破裂の1例.  
日本消化器病学会関東支部第347回例会, 東京, 2017.12.2 (口演) 12/2 (土)
61. Sariya Dechamethakun, 江口英孝, 田邇祐喜, 平田智子, 神田将和, 赤木究, 石田秀行, 岡崎康司.  
リンチ症候群が臨床的に疑われた患者における病的生殖細胞系列遺伝子異変の同定.  
第15回RCGMフロンティアシンポジウム, 日高, 2017.12.1-2 (ポスターセッション)
62. 幡野哲, 伊藤徹哉, 牟田優, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における閉塞性大腸癌に対する大腸ステント留置後腹腔鏡下手術の短期成績.  
第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.7-9 (示説) 12/9 (土)
63. 熊谷洋一  
超拡大内視鏡Endocytoscopy system開発の経過と上部消化管粘膜の観察  
第50回神奈川県消化器病医学会総会, 横浜, 2017.12.16 (特別講演) 12/16 (土)

64. 鈴木興秀, 石田秀行, 岩間毅夫, 田彗祐喜, 江口英孝, 岡崎康司  
BMPR1A, SMAD4 以外の原因遺伝子が疑われている Juvenile polyposis syndrome (JPS) の1家系  
日本消化器病学会 関連研究会 第4回消化管ポリポシス研究会, 2018, 東京, 2018.1.8 (シンポジウム) 1/8 (月)
65. 村松俊輔, 伊藤徹哉, 近谷賢一, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 鈴木興秀, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
大腸癌肝転移切除例における選挙部の予後への影響.  
第88回大腸癌研究会, 東京, 2018.1.26 (示説) 1/26 (金)
66. 近谷賢一, 石橋敬一郎, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.  
切除不能大腸癌に抗EGFR抗体を用いた3次治療における原発巣部位別の治療成績.  
第88回大腸癌研究会, 東京, 2018.1.26 (示説) 1/26 (金)
67. 田中屋宏爾, 虫明泰, 宇根悠太, 賀島肇, 谷口文嵩, 内海方嗣, 荒田尚, 勝田浩, 青木秀樹, 古川洋一, 石川秀樹, 吉田輝彦, 菅野康吉, 石田秀行, 江口英孝, 赤木究.  
リンチ症候群に対する診断の現状と課題.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.10 (ワークショップ) 2/10 (土)
68. 高雄美里, 山口達郎, 夏目壮一郎, 中野大輔, 松本寛, 高橋慶一, 江口英孝, 岡崎康司, 石田秀行.  
次世代シーケンサーを用いたMulti genepanelにより同定されたMUTYH遺伝子変異を伴う大腸ポリポシス患者の5例の検討.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ワークショップ) 2/10 (土)
69. 村松俊輔, 小倉俊郎, 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 石川葵, 牟田優, 近谷賢一, 伊藤徹哉, 山本梓, 近範泰, 幡野哲, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 岩間毅夫, 石田秀行.  
家族性大腸腺腫症に合併する十二指腸病変に対する治療戦略.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ワークショップ) 2/10 (土)

70. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 斎藤加奈, 内藤浩, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
進行食道胃接合部癌の予後因子からみた術式検討.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (要望演題) 2/10 (土)
71. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 伊藤徹哉, 牟田優, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
切除不能進行胃癌に対する conversion surgery (R0) 後の治療成績.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (要望演題) 2/9 (金)
72. 石畝亨, 福地稔, 伊藤徹哉, 牟田優, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.  
当科における胃癌穿孔症例の治療成績.  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ミニオーラル) 2/9 (金)
73. 石畝亨, 持木彫人, 福地稔, 伊藤徹哉, 牟田優, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.  
根治切除不能進行・再発胃癌に対する Paclitaxel/Ramcilmab の検討.  
第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.7-9 (示説) 3/9 (金)
74. Fukuchi M, Mochiki E, Ishiguro T, Kuwabara K, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H.  
Efficacy of irinotecan as third-line chemotherapy for unresectable or recurrent gastric cancer.  
第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.7-9 (口演) 3/9 (金)
75. 熊谷洋一  
超拡大内視鏡 Endocytoscopy system (ECS) 開発の経過と上部消化管粘膜の ECS 診断.  
第106回日本病理学会総会, 東京, 2017.4.28 (ランチョンセミナー講演)

## 国際学会

1. Ishibashi K, Nakamura M, Tsuji A, Takinishi Y, Shindo Y, Aoyama T, Sakamoto J, Oba K, Mishima H.  
Randomized phase II study of cetuximab vs, irinotecan and cetuximab in patients with chemo-refractory KRAS codon G13D metastatic colorectal cancer (G13D-study): Compared with ICECREAM study.  
ESMO 19th World Congress on Gastrointestinal Cancer. Barcelona, 2017.6.28–7.1 (Poster)
2. Eguchi H, Chika N, Kumamoto K, Suzuki O, Ishibashi K, Tachikawa T, Akagi K, Tamaru J, Okazaki Y, Ishida H.  
Prevalence of Lynch syndrome and Lynch-like syndrome among patients with colorectal cancer in a Japanese hospital-based population.  
7th Biennial Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours (InSiGHT). Florence, 2017. 7. 5–8 (Poster)
3. Ishida H, Yamaguchi T, Takao M, Eguchi H, Okazaki Y, Ishida H.  
Clinicopathological features of APC mutation-negative FAP patients.  
7th Biennial Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours (InSiGHT). Florence, 2017. 7.5–8 (Poster)
4. Akagi K, Kakuta M, Ishida H, Mori S, Nagasaka T, Matsubara N.  
Prognostic or predictive impacts if colorectal cancers with Lynch syndrome by the administration of 5-FU-based adjuvant chemotherapy.  
7th Biennial Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours (InSiGHT). Florence, 2017. 7.5–8 (Poster)
5. Tanakaya K, Mushiake T, Kunitomo T, Taniguchi F, Yasuhara I, Utsumi M, Arata T, Katsuda K, Aoki H, Takeuchi H, Tamura C, Matsuda K, Katsumata N, Furukawa Y, Sugano K, Ishikawa H, Ishida H.  
Annual colonoscopy could not prevent surgery for colorectal cancer in family with MLH1 and MSH2 mutation carriers.  
7th Biennial Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours (InSiGHT). Florence, 2017. 7.5–8 (Poster)

6. Miguchi M, Konishi T, Arai M, Yamaguchi T, Tanakaya K, Nomizu T, Yamashita K, Hinoi T, Matsubara N, Nagasaka T, Mori T, Kumamoto K, Kakuta M, Ishida H, Akagi K  
Clinicopathological characteristics of initial colorectal cancer and metachronous colorectal cancer development in Japanese mismatch repair gene mutation carriers.  
7th Biennial Meeting of International Society for Gastrointestinal Hereditary Tumours (InSiGHT). FLORENCE, 2017. 7.5–8 (Poster)
7. Kumagai Y, Takubo K, Kawada K, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H.  
Endoscopic observation of various types of esophagitis.  
14th World Conference Geneva Global perspectives in Esophageal Diseases. Geneva, 2017.9.2–5 (Poster).
8. Sobajima J, Kumagai Y, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H  
Indocyanine green fluorescence technique for gastric tube reconstruction during esophagectomy.  
14th World Conference Geneva Global perspectives in Esophageal Diseases. Geneva. 2017.9.2–5 (Poster)
9. Hasegawa H, Okabayashi K, Tsuruta M, Koike J, Funabashi K, Yokomizo H, Yoshimatsu K, Kan H, Yamada T, Ishida H, Ishibashi K, Saida Y, Enomoto T, Katsumata K, Koda K, Ochiai T, Sakamoto K, Ogawa S, Itabashi M.  
Updated survival results of FACT trial: Multicenter phase II trial of neoadjuvant chemotherapy with mFOLFOX6 for stage II/III rectal cancer with aT3/T4 tumor.  
42nd ESMO Congress (ESMO 2017). Madrid, 2017. 9 8-9.12 (Poster)

## 2017年度 学会・研究会 座長・司会・コメンテーター

---

1. (司会) 石田秀行  
大腸肛門疾患に対する手術の最前線【Internatinal/Video】  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (シンポジウム) 4/27
2. (司会) 持木彫人  
上部消化器温存手術の工夫とその生理学的評価【Internatinal】  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (パネルディスカッション) 4/27
3. (司会) 石橋敬一郎  
「大腸—化学療法—1」  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (ポスターセッション) 4/29
4. (司会) 福地稔  
基礎—癌  
第117回日本外科学会定期学術集会, 横浜, 2017.4.27-29 (サージカルフォーラム) 4/28
5. (座長) 熊谷洋一  
内視鏡検査  
第71回日本食道学会学術集会, 軽井沢, 2017.6.15-16 (示説) 6/15
6. (座長) 石田秀行  
局所進行癌に対する集学的治療  
第39回日本局所療法研究会, 京都, 2017.6.23 (主題) 6/23
7. (座長) 福地稔  
ヘルニア手術の実際と工夫1  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (要望演題: ビデオ)  
7/21

8. (座長) 石橋敬一郎  
大腸：大腸癌 予後・再発1  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ミニオーラル) 7/20
9. (座長) 石田秀行  
創傷治療理論に基づくVAC治療の有用性  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ランチョンセミナー)  
7/20
10. (司会) 石田秀行  
大腸癌肝転移に対する治療戦略  
第72回日本消化器外科学会総会, 金沢, 2017.7.20-22 (ワークショップ4,  
English) 7/20
11. (司会) 石田秀行  
第15回日本臨床腫瘍学会学術集会, 神戸, 2017.7.27-29 (International  
Symposium) 7/29
12. (座長) 石田秀行  
家族性大腸ポリポシス・リンチ症候群  
第23回家族性腫瘍学会, 札幌, 2017.8.4-5 (要望演題) 8/4
13. (座長) 石田秀行  
大腸 (臨床病理診断)  
第25回日本消化器関連学会集会 (消化器外科学会) (JDDW 2017 FUKUOKA),  
福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスター) 10/12
14. (座長) 石橋敬一郎  
大腸 (化学療法・免疫療法)  
第25回日本消化器関連学会集会 (消化器外科学会) (JDDW 2017 FUKUOKA),  
福岡, 2017.10.12-15 (デジタルポスター) 10/14
15. (座長) 石田秀行  
大腸 チーム医療  
第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22 (一般口演) 10/21

16. (座長) 持木彫人  
胃 化学療法 4  
第55回日本癌治療学会学術集会, 横浜, 2017.10.20-22 (デジタルポスター)  
10/22
17. (座長) 石田秀行  
Stage II 大腸癌 2  
第72回日本大腸肛門病学会学術集会, 福岡, 2017.11.10-11 (要望演題) 11/10
18. (司会) 持木彫人  
胃切除後障害の評価と予防, 治療  
第47回胃外科・術後障害研究会, 横浜, 2017.11.10-11 (ワークショップ) 11/3
19. (座長) 熊谷洋一  
胃癌手術のベストプラクティス 2  
第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.23-25 (主題関連演題) 11/25
20. (司会) 石田秀行  
内視鏡下手術での起死回生の一手 (大腸)  
第79回日本臨床外科学会総会, 東京, 2017.11.23-25 (特別演題) 11/25
21. (座長) 石橋敬一郎  
一般演題 2  
第30回日本外科感染症学会総会学術集会, 東京, 2017.11.29-30 (口演) 11/30
22. (司会) 持木彫人  
胃・十二指腸悪性17  
第30回日本内視鏡外科学会総会, 京都, 2017.12.7-9 (示説) 12/8
23. (司会) 石田秀行  
大腸癌の占拠部位による差異のすべて  
第88回大腸癌研究会, 東京, 2018.1.26 (総合討論) 1/26
24. (司会) 石橋敬一郎  
大腸 11  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ミニオーラル) 2/10



25. (司会) 持木彫人  
漢方で消化管を癒す  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ワークショップ)  
2/9
26. (司会) 石田秀行  
遺伝性大腸疾患の最新の知見  
第14回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2018.2.9-10 (ワークショップ)  
2/10
27. (座長) 石田秀行  
ストーマ造設2  
第35回日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会総会, 札幌, 2018.2.24 (口演) 2/24
28. (座長) 持木彫人  
腹腔鏡下噴門側胃切除後の再建1  
第90回日本胃癌学会総会, 横浜, 2018.3.7-9 (ビデオ) 3/9
29. (コメンテーター) 石田秀行  
大腸穿孔2  
第54回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2018.3.8-9 (要望演題) 3/8
30. (司会) 石田秀行  
JDDW 2017 Fukuoka 大腸化学療法の治療戦略 ～内服抗癌剤の有効活用～.  
福岡, 2017.10-12-15 (ランチョンセミナー) 10/13
31. (座長) 石畝亨  
セッション1  
第3回埼玉ヘルニア研究会, さいたま, 2018.3.10 (セッション) 3/10

## 2017年度 講演会・談話会 など

---

1. (座長) 持木彫人  
噴門側胃切除術後観音開き法再建・食道胃接合部癌への応用.  
第8回さいたまLAGセミナー  
さいたま, 2017.4.8
2. (口演) 石畝亨  
当科における腹腔鏡下胃癌手術再建法.  
第5回埼玉上部消化管外科勉強会  
さいたま, 2017.05.16
3. (講演) 石田秀行  
押さえておきたい家族性大腸癌の基礎.  
第9回埼玉がん薬物療法講演会  
さいたま, 2017.5.18
4. (総合司会) 石田秀行  
CRC Chemotherapy Meeting  
東京, 2017.5.19
5. (座長) 石田秀行  
第6回埼玉西部敗血症治療セミナー  
川越, 2017.5.23
6. (口演) 石畝亨  
胃癌stage IIIの補助化学療法—SOX療法の使用経験—.  
第1回埼玉胃がん研究会  
さいたま, 2017.05.27
7. (口演) 石畝亨  
腹腔鏡下胃癌手術における再建.  
第5回埼玉上部消化管癌研究会  
川越, 2017.06.16

8. (司会) 持木彫人  
第9回埼玉上部消化管手術研究会  
さいたま, 2017.7.28
9. (講演) 持木彫人  
胃癌最新情報について.  
Tochigi Cancer Forum  
宇都宮, 2017.6.7
10. (口演) 石畝亨  
腹腔鏡下胃切除術 (デルタ吻合)  
第9回埼玉上部消化管手術研究会  
さいたま, 2017.07.28
11. (講演) 石橋敬一郎  
チームで支える大腸癌化学療法.  
第24回薬薬連携研究会  
川越, 2017.8.4
12. (口演) 石畝亨  
胃癌の化学療法—手術介入を含めて—.  
新臨床消化器研究会サマーセミナー  
川越, 2017.08.05
13. (座長) 石田秀行  
～埼玉大腸がん治療Seminar2017～.  
さいたま, 2017.9.4
14. (Opening Lecture) 持木彫人  
第5回埼玉上部消化器癌研究会  
さいたま, 2017.9.14
15. (口演) 石畝亨  
当院における高度進行胃癌に対する化学療法後の手術成績.  
第5回埼玉上部消化器癌研究会  
さいたま, 2017.9.14

16. (座長) 持木彫人  
埼玉消化器癌学術講演会  
川越, 2017.9.20
17. (口演) 福地稔  
胃癌化学療法の最近の知見—手術介入を含めて—  
埼玉消化器癌学術講演会  
川越, 2017.9.20
18. (Closing Lecture) 石田秀行  
Saitama Colorectal Cancer Forum  
さいたま, 2017.9.26
19. (口演) 石畝亨  
当科におけるパクリタキセル+サイラムザ療法の治療成績—手術介入も含めて—  
西部地区 Gastric Cancer Expert Seminar  
川越, 2017.9.29
20. (座長) 持木彫人  
西部地区 Gastric Cancer Expert Seminar  
川越, 2017.9.29
21. (口演) 熊谷洋一  
Optical biopsy —生検診断省略へ向けての試み—  
内視鏡診断・治療 Up to Date in 川越  
川越, 2017.10.03
22. (口演) 石畝亨  
切除不能進行胃癌に対する二次化学療法奏効後手術の意義  
川越外科臨床研究会  
川越, 2017.11.01
23. (座長) 持木彫人  
第18回 川越消化器病談話会  
川越, 2017.11.8

24. (座長) 石田秀行  
北関東消化管癌化学療法講演会  
さいたま, 2017.11.25
  
25. (座長) 石田秀行  
大腸癌治療カンファレンス in 川越  
川越, 2018.2.2
  
26. (座長) 石田秀行  
第31回関越DIF研究会  
東京, 2018.2.3
  
27. (口演) 福地稔  
当科における進行・再発癌に対する2次治療成績.  
第31回関越DIF研究会  
東京, 2018.2.3
  
28. (講演) 石田秀行  
遺伝性大腸癌—最新知見と臨床的対応—.  
オンコロジーフォーラム2018  
東京, 2018.2.15
  
29. (講演) 石田秀行  
第74回 病理診断学講座 (岩手医科大学)  
盛岡, 2018.3.20

## 研究費獲得

---

1. 石田秀行（分担）

日本医療研究開発機構委託研究費（AMED）

ゲノム創薬・医療を指向した全国規模の進行固形がん，及び，遺伝性腫瘍臨床ゲノムデータストレージの構築（中釜班，赤木グループ）

2. 伊藤徹哉

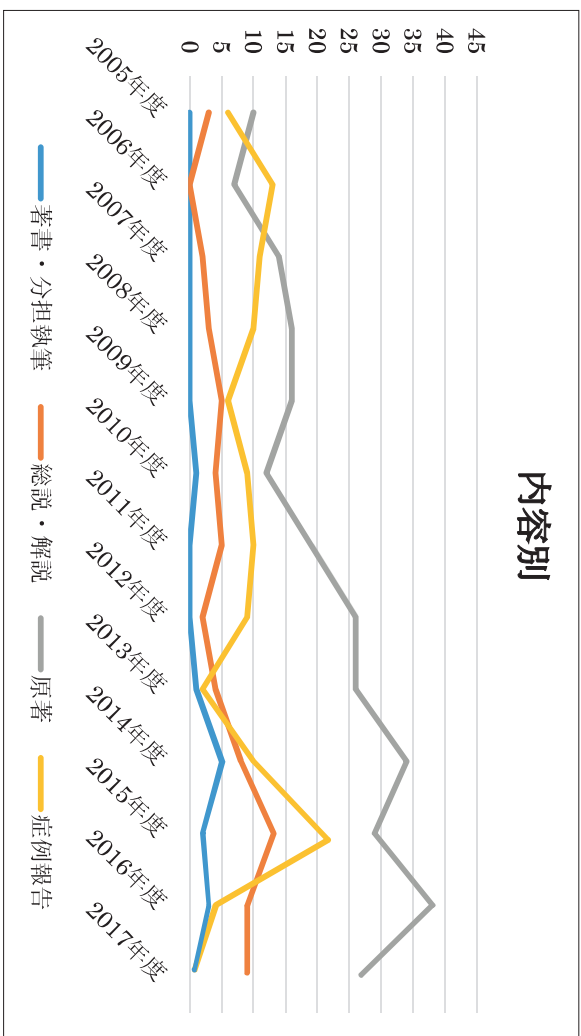
埼玉医科大学若手育成研究費（鴨田特別賞）

研究課題：診療科横断的リンチ症候群および類縁疾患の病的変異の同定と遺伝情報に基づく治療選択への試み—一次世代シーケンス技術など最新の分子腫瘍学的技術を応用して—

## 主な学会・研究会発表の年次推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
日本外科学会	2	1	2	4	6	5	7	6	7	8	8	12	6
日本消化器外科学会総会	1	2	7	8	5	7	14	11	9	9	19	10	8
日本消化器外科学会大会						4	5	4	3	1	2	3	3
日本大腸肛門病学会	10	10	8	8	12	10	13	9	9	6	15	8	5
日本食道学会			1	2	1		1	4	1	4	2	1	3
日本胃癌学会			3	1	4	4	2	3	5	6	5	6	2
日本癌治療学会		1	3	3	6	5	8	6	6	9	8	4	3
日本臨床外科科学会	16	3	17	13	11	7	11	11	11	9	4	2	1
日本腹部救急医学会		4			3	延期	7	3	5	3	3	0	0
日本外科感染症学会	1	5	5	3	4	1	8	1	2	3	1	2	1
大腸癌研究会(年2回)	3	3	2	2	5	3	3	5	5	3	3	10	2
日本癌局所療法研究会		2	5	5	6	8	9	14	6	7	13	6	7
その他の国内学会・研究会	10	17	23	26	27	12	11	11	41	45	31	33	34
ISUCRS		3			9			4					
国際大学結腸直腸外科科学会													
その他の国際学会	2	3	5	9	9	17	7	6	10	13	10	5	9
合計	45	54	81	84	108	83	106	98	120	126	124	102	84

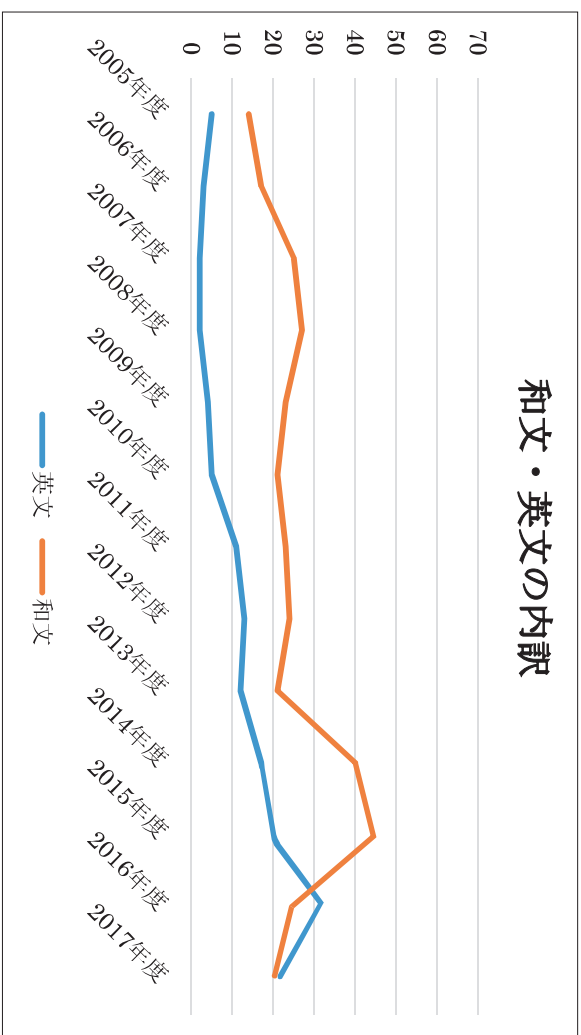
# 紙上発表の推移



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
著書・分担執筆	0	0	0	0	0	1	0	0	1	5	2	3	1
総説・解説	3	0	2	3	5	4	5	2	4	8	13	9	9
原著	10	7	14	16	16	12	19	26	26	34	29	38	27
症例報告	6	13	11	10	6	9	10	9	2	10	21	4	1



## 和文・英文の内訳



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度
英文	5	3	2	2	4	5	11	13	12	17	20	31	21
和文	14	17	25	27	23	21	23	24	21	40	45	23	20

## 2017年度 教室員

教授		准教授		講師		助教	
石田秀行☆		石橋敬一郎 (兼任)		福地 稔▲		幡野 哲	
持木彫人★		熊谷洋一△		石畝 亨○●		天野邦彦	
岩間毅夫 (客員教授)						鈴木興秀	(10/1~)
辻 美隆 (兼任)						村松俊輔	
						近 範泰	
						山本 梓	
						伊藤徹哉	
						近谷賢一	
						山本裕之	(~6/30)
						牟田 優	
						石川博康	(3/1~)
						石川 葵	(~9/30)

☆診療部長、★副診療部長、○総務、●研修医長、△病棟医長、▲外来医長

他の構成員：桑原公亀（白河病院）、沖田剛之（大宮共立病院）、山本瑛介（都立大塚病院）、鈴木興秀、石川 葵（武蔵野赤十字病院）、石塚直樹（東松山市立市民病院）、崎元雄彦（丸木記念福祉メディカルセンター）、坂本眞之介（沖縄北部病院）

## 編集後記

「2017年度埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科年報」が刊行されましたのでお届けします。

2017年度も昨年同様きびしい医療環境のなか、教室員が一丸となって診療、教育、学会発表・論文作成報告などを行ってきました。

2017年度もこれまで以上にOBの先生方、関連施設の先生方を含め、多くの関係者の方々にご指導を賜りながら、教室員一同力を合わせ邁進して参りたいと考えております。また、2018年度より新外科専門医制度が始まることが決まっております、ある程度の混乱が予想されます。しかし、教室員は例年通り、安定した医療、教育、学会発表・論文作成を行いつつ対応していく所存でございます。各先生方には、ご迷惑をおかけするかもしれませんが、引き続きご指導・ご鞭撻のほど重ねてよろしくお願い申し上げます。

消化管・一般外科 石畝 亨